

9

7 3  
3661

7 3

山寺  
玉足文庫

職原抄支流目錄

卷一

攝家之事 并 家業 攝政 關白 大閣

清華之事 并 家業 極位 極官

大臣家之事 并 家業 極位 極官

羽林家之事 并 家業 極位 極官

名家之事 并 家業 極位 極官

新家之事

肥近衆之事

羽林名家之外之事 并 家業 極位 極官



卷二

羽林家并武家任官之次第  
 攝家任官之次第之事  
 清华任官之次第之事  
 公方任官之次第之事  
 名家任官之次第之事

卷三

八省 四分配當并唐名職掌之事  
 諸寮 四分并唐名職掌之事  
 諸職 四分并唐名職掌之事

諸司 三分并唐名職掌之事  
 衛府 四分并唐名職掌之事  
 諸國 四分并唐名職掌之事  
 諸官 同前

卷四

天子 踐祚 御位 大嘗會 皇居 參内  
 昇殿 任官 叙位 詔書 綸旨 公宣  
 宣旨 宣命 位記 勅書 震筆 行幸  
 還幸 選幸 朝勤 鳳輦 龍蹄 御衣  
 御斂 供御 御惱 崩御 奏達 奏聞

長橋局オホハシ 女奉書メノオウモリ  
 公方トウハツ 征夷將軍セイエイ  
 鎌倉將軍九代カマクラ 同執權九代ドウ 惣追補使ソウ 守護シヨゴ  
 尊氏タカウヂ 十五代ゴジュウ 十一位ジュウイチ 三議サンギ 一統イツトウ 御内書ミノウキ  
 御下文ミノシラセ 公愾コウサイ 御教書ミノシラセ 奉書ホウシヤ 遵行ジュンギョウ 施行シヨウジヤウ  
 打渡ウチワタ 殿中テンチュウ 御成ミナリ 七字シチジ 他界タカイ 管領クワンリョウ  
 四職シシヨク 御相判ミナシジ 衆ムラ 信長公シノナガ 維任イニ 光秀ミツヒデ  
 秀吉公ヒラギキ

卷五

門跡カドノシ 付ツケ 法親王ホウシン 天台テウタイ 眞言シンオン 修驗者シユケン 善法寺ゼンポウジ

御慮ミヨル 叙感ショカン 叙覧ショラン 逆鱗ギャクリン 玉体タマタマ 勅諭テツル  
 勅使テツシ 綸言リンゴン 御遊ミヨウ 勅裁テツサイ 天裁テンサイ 勅任テツニン 勅詔テツシヨウ  
 勅願テツガン 月ツキ 卿キョウ 雲客ウンカク 臺盤ダイバン 所ショ 朝餉テウクウ 御座ミマデ  
 夜殿ヨノミヤ 直宿チヨクシヨク 對屋タツイヤ 鈎殿カウテン 御座ミマデ  
 院イン 并ナヒ 太上トウソウ 天皇テンノウ 仙洞センドウ 院イン 參サン 院イン 使シ 御幸ミコガタ  
 春宮ハルノミヤ 并ナヒ 坊ボウ 令旨レイジ 御方ミカタ 行啓ギョウキ 薨御コウミ 皇子ミコ 諸王シヨウ  
 親王シンノウ 并ナヒ 品ヒナ 内親王ウチノシンノウ 竹菌タケタケ 宮ミヤ 皇子ミコ 諸王シヨウ  
 國母クニノハハ 并ナヒ 女院メノイヌ 門院カドノイヌ 外祖ソトノオジ 外戚ソトノセキ 御入内ミノリノ 御臺ミノタ  
 准后シヨウゴ 更衣カウイ 御息所ミヨシヨ 北政所キタマサノシヨ 御臺所ミノタノシヨ

職原抄  
 南禪寺 五山 十刹 大德寺 妙心寺  
 曹洞宗 淨土宗 真宗 日蓮宗 時宗  
 國師 大師 長老 古今僧官位 社家  
 吉田 祭主 賀茂 住百 仁人 裁許狀  
 宮城殿門圖說

職原抄支流目錄終

職原抄支流卷之一

攝家并家業

藤 近衛 藤 九條 藤 二條 藤 一條 藤 實司

右五家ヲ攝家ト云フ攝政關白ヲ以テ先途

トシテ不望大政大臣 大化抄ノ以要曰政ヲ

攝ト讀テ 天子ニカワリテ万機ノ政ヲ掌ル

方是故攝政ハ 女帝又ハ 幼帝ノ御時ハカ

リ有之 女帝 幼帝自政務ヲキコシメ玉フ

事不能是ヲ以テ攝政タル人 天子ニカワリ

テ政務ヲツカサドリ玉フ関白ハ関白ト讀テ

天子ノ勅ヲ奉リテ人臣ノ最上トシテ天下ノ  
政務ヲトリ行フ職ナリ関白ニ任ズバ人臣ノ  
上ニ坐スルニ依テ人ト云又殿上モ殿下ト  
モ云異朝ニテモ試ノ攝政ハ鷹司也人臣攝  
政ノ始ハ周公直ナリ本朝ニテ試ノ攝政ノ始ハ  
推古ノ朝ニ聖德太子ナリ人臣ノ攝政ノ始ハ  
清和ノ朝ニ忠仁公良房ナリ今ノ攝政ハ忠仁  
公ノ例也異朝ニテ関白ノ始ハ漢ノ宣帝ノ  
時霍光任之本朝ニテ関白ノ始ハ陽成  
院ノ朝ニ昭宣公基經忠仁公ノ子也余以來攝政関

白彼ノ家ニ傳リテ他家ニウツル者今ノ五  
攝家モ此御子孫ナリ近衛殿ハ嫡流也九條  
殿ハ庶流ナリ近衛殿分テ鷹司家アリ九  
條分テ一條家一條家アリ此五家高下  
ナリ時ノ官位次第ニ上坐アリ攝政関白ハ二  
箇年ツ輪任也今ハ鷹司ノ左大臣房輔公  
攝政也近衛殿ハ系圖ノ面テハ惣領トシ家  
ニ名記コレナレニ一條殿ハ後光嚴院ノ御宇ヨ  
リ正統トシテ攝家ノ名記悉ク二一條殿ニアリ  
是故ニ代々公方家ノ名記ニ一條殿ヲ以テ有

職ノ師範トシ玉イテ諱ノ字ヲ授ケ至フ攝家ト  
 攝政家ヲ畧シテイエハ辭ナリ関白有ル時ハ攝  
 政ナレ攝政アルハ関白ナレ何レニテモ一職ツ有之  
 モチリ今ハ幼帝ナ故ニ攝政侍ルリ攝政関白  
 久仁藤氏ノ長者又ハ内覧ノ旨旨ヲ蒙ル也関  
 白ノ父タル人ヲ太閤ト云フ傳法躰スハ禪閣上云  
 攝家ノ職ハ自神代相傳ニ來リ侍ル大堂書天  
 神地祇ヲ名ニ奉ル大事并神膳ノ儀即位灌上  
 頂ノ大事右品々ヲ傳エテ天子へ授ケ奉  
 凡役也其外節會官奏叙位除目ヲ四箇ノ大

事ト名付ケテ代々ノ口次ヲ相傳シテ攝家ノ家  
 業トシ至ヘリ是故ニ攝家ノ仁且讀ト称スハ不  
 學ノ人ハ不所事也

清華并家業 極位 極官

一藤 轉法輪三條 大政大臣 從一位

一藤 德大寺 大政大臣 從一位

一藤 大炊御門 大政大臣 從一位

一藤 今出川 右大臣 從一位 菊亭トモ云フ

右ノ家ヲ清華ト云又ハ華族ノ君達凡云フ大政

大臣ヲ先途トシテ其職下人ニ師範トシテ四海ニ

藤 西園寺 大政大臣 從一位

藤 華山院 大政大臣 從一位

源 久我 大政大臣 從一位

儀形多クシテ望テ有職四箇大夏傳工王佐ノ  
オヲタタクハエテ政ヲスルヲ家業トシ侍ル也

大臣家 并家業 極位 極官

一藤三條 左大臣 從二位 一藤西三條 左大臣 從二位 一源中院 內大臣 從二位

右三家ヲ大臣家ト云不歷大將ニテ大臣ニ至

ルヲ大臣家ト云私ニ曰大臣ニ至ル家々十五家

アリ大臣ニ至リテ大將ヲ兼ルル不能ス大臣

家ト云大將ヲ兼大政大臣迄至リテ攝關ヲカ

スル不能家々ヲ清華ト云清華ハ七人ニカキ

ルカラズ何時ニテモ大將ヲ兼大臣ニ至ル人

了スハ是皆清華ナリ大臣家モ如此ナリ今ノ時分大

臣ニ至ル器量又ハ高家ノ人無キニヨツテ右ノ家ハ

英雄ノ思フナセリト云攝家トハ大將ヲ兼大政

大臣ニ至リテ攝政関白ニ至ル家ヲイエリ攝家ヨリ

ハ清華大臣家ヲモ凡人トイヤシメ王ナリイソヤ

ノヨリ以下ノ人々ヲ清華大臣家ハ大政ハ攝家

ノ君達ノ攝關ニ至リ至ハテヲソリ至フ人々ノ子孫也

羽林家 并家業 極位 極官

一藤四辻 大納言 正二位 一藤中山 大納言 正三位

一藤飛鳥井 大納言 正三位 一藤冷泉 中納言 從二位



源 六條 大納言 正二位

藤 清水谷 大納言 從一位

藤 橋本 大納言 正二位

源 綾小路 中納言 正二位

藤 松木 大納言 正二位

藤 川鯨 中納言 正二位

藤 水無瀬 中納言 正二位

藤 難波 中納言 正二位

藤 四條 大納言 從二位

藤 山科 大納言 正二位

藤 阿野 中納言 從二位

藤 小倉 大納言 正二位

藤 姊小路 中納言 正二位

源 庭田 大納言 正二位

藤 持明院 中納言 正二位

藤 滋野井 中納言 正二位

藤 園 中納言 正二位

王 白河 參議 從二位

藤 鷲尾 大納言 正二位

藤 西大路 大納言 正二位

藤 油小路 中納言 正二位

巳上二十五家

右自先祖經近衛司自中少將昇進侍リテ

大中納言參議ヲ先途トシテ武官ヲ兼叙務

ヲ帶スル家々ヲ羽林家ト云大納言ニ至リテ

バ大臣ノ與棄テリ節會官養叙位除目以下ノ

公事ヲ行ヒ侍ル故ニ有職故實以テ家業トシ侍

ル也

名家并家業 極位 極官

藤 日野 大納言 從一位

藤 廣橋 大納言 從一位

藤 馬丸 大納言 從一位

藤 柳原 大納言 從一位

藤原 耳露寺 大納言 從一位

藤原 葉室 大納言 正二位

藤原 万里小路 大納言 從一位

藤原 勸修寺 內大臣 從一位

藤原 中御門 大納言 從一位

藤原 清閑寺 內大臣 從一位

藤原 小川坊城 大納言 從一位

藤原 竹屋 參議 正二位

已上十二家

右自先祖文筆ノオヲモトシ學儒道經歷

辨官ニテ職事ヲ兼ル家々ヲ名家ト云々名家

ハヤ名ヲ以テ立家ヲ侍ル故ニトニ代マシ之名記ヲ

考ヘ右職故實ヲ兼行ヒ侍ル事ヲ家業トス

羽林名家之外 凡家業極位極官

藤原 高倉 大納言 正二位

菅原 高辻 大納言 正二位

菅原 五條 大納言 正二位

藤原 坊城 大納言 正二位

藤原 唐橋 參議 正三位

源氏 五辻 正三位

源氏 竹内 非參議 正三位

藤原 富小路 左衛門 從一位

安倍 土御門 左兵衛督 從二位

清原 舟橋 少納言 正三位

已上十家

右名家羽林ノ外也此中ニモ名家ニ同程

家モアリ大中納言ヲ先途トシ或ハ散一位ニ

位ヲ先途トス凡家モアリ然レ中少將辨官

ヲ經歷セザル輩ハ暫日名家羽林ノ外ニ記シ侍ル

ナリ家業モコソヲ以テ分別スヘシ

新家

- 一藤 松殿
  - 一藤 堀口
  - 一藤 日野西
  - 一藤 東園
  - 一藤 裏辻
  - 一藤 梅蘭
  - 一安 倉橋
  - 一藤 藪内
  - 一平 平松
  - 一藤 藤谷
  - 一源 久世
  - 一源 岩倉
  - 一源 千種
  - 一藤 堀川
  - 一平 冷泉下
  - 一藤 櫛笥
  - 一藤 華園
  - 一藤 七條
  - 一堀 小路
- 右新家也當代各本家ヨリ別テ家ヲ立ル

已上十九家

輩ヲ新家ト号スルナリ

私曰新家ト代々ニ出來侍ルナリ此外ノ新家  
 又九二記之此新家ノ内ニテ松殿ハ清花也  
 断絶スソノ外ハ大中納言參議ニ至ル家モアリ  
 非參議ニ至ル家モアリ時ニシテカキ其仁ニヨリテ  
 昇進シ侍ト見ヘタリ

新家

- 一藤 野宮
- 一藤 押小路
- 一源 梅溪
- 一藤 大宮
- 一藤 裏松
- 一藤 池尻
- 一清 伏原
- 一藤 勘解由路
- 一藤 武者小路

藤 桂	藤 交野	平 長谷	源 魚谷	藤 町口	源 東久世	藤 中川	日野	勸修寺
源 田向	藤 園池	藤 町尻	源 葛岡	藤 滋岡	源 小澤	藤 細野	既近衆	飛鳥井
藤 山本	藤 芝山	菅 若江	源 愛岩	藤 風早	源 佐々木	已上二十九家	先代	高倉
							廣橋	柳原
							山科	竹内
							舟橋	同衆 當代
							西三條	堀川

已上十七家ヲ 公方ノ既近衆ト云ヒテ  
 公方家へ隨眠シテ方夏御用ヲ奉仕へ侍  
 ルナリ傳養モ多クハ既近ノ中ヨリ器量ヲ重  
 ラシメテ定メラル物惣レテ傳養ト云ハ 公方家  
 ノ傳養ナリニカキテ事ヲモ 養達セ

一山科 一冷泉  
 一竹内 右十二人  
 一橋本 一梅菌  
 一土御門 右五人  
 同衆 當代

ヲルニナリ

職原抄支流卷之一

職原抄支流卷之二

一ツ官ニ任ズルニ羽林家ト各家ノ兩様アリ  
 武家ニ專羽林家ノ任シヤウナリ名家ハ文官  
 フ經テ昇進セリ羽林家ハ武官ヲ經テ兵使  
 フ帶スルナリ是故ニ今テノ武家ハ羽林家ノ任  
 シ用ニメ叙笏ヲ帶シテ武ヲタシテ侍ル也  
 一武家ハ元來地下ニテ公卿ニ至ル人少ナリ  
 然ルニ等持院尊氏卿ノ嫡孫鹿苑院義満  
 公ノ御代ニ至ツテ 公方ト云家ヲ勅許有テ

職原抄

支流卷之二

一

其身從上位相國ニ至リ家人ヲ大納言ミテニ  
昇進セシメ源氏ノ長者淳和學兩院ノ別  
當ヲ兼攝家ト同等ニシテ武士ノ棟梁ニ成至  
ヒテヨリ今ニ至ルニテ其例トナリテカワレ夏ナシ  
是故ニ侍ハ生出レ六六位相當ス故ニ位官ス  
六則五位ニ叙ス當時ニハ一夫一侍ヲ十位  
ニ叙列シテ其カニ高位ノ武家ナシ 大閤秀  
吉公ノ御時ヨリ諸大夫ヲ召仕イ至イ任  
官ノ武家多シ武家ノ官位ハ公家ノ外ナシ  
ユニ相當モ位階タカクシテ其上ノ人數モ多

レ今此ノ書ハ當代ノ武家ノ昇進ヲ先ツ記  
シ侍ル也

侍

今六位相當ノ由舊記ニ見ヘタ  
ハ倍臣 俗又内ト云ハ不然ナリ  
内裏ニ伺候ス侍ス龍口  
院侍ス北面東宮ノ侍ス帶  
解ト云今コニ侍ト云ハ 公方  
家ノ侍ノ吏ナリ

諸大夫

正從五位上下ヨリ從四位下ニ  
叙スハ四品ノ諸大夫ト云武家ハ

侍從

何モ地下ナリ故ニ地下ノ諸大夫  
 上云是武家ニ限リテノ事ナリ禁  
 中ニ今ハ諸大夫ナシ攝家清花  
 三少々有之  
 相當從五位下也文官也今  
 ノ武家ノ侍從ハ大炊從四位上  
 下也唐ノ名ヲ拾遺補闕云此  
 侍從ハ 天子ノ近習ニ侍リテ  
 遺ニ玉ヲ所ヲ拾闕玉ヲ所ヲ補  
 ガ役也定數八人ニシテ其内三

右 左 少將

人ハ少納言ヲ兼ル也侍從ハ左大  
 臣ニ至ルニテモ兼官ニシテ侍ル也口  
 傳也 是ハ禁中ニテノ事也武家  
 三六不然也  
 相當正五位下也本式ハ 右 左 近衛  
 少將上云兵仗ヲ帶シエヒラシ負  
 弓ヲ持テ宿衛シテ  
 天子ヲ親衛侍ル也故ニ近衛ノ  
 唐名ヲ親衛ト云今時ノ武家  
 大炊正從四位上ナ也唐名ヲ

右 中將

羽林少公又公羽林次將  
相當從四位上禁中ニテノ様子  
少將同事也是モ右近衛中將  
上云今ノ武家ハ大畧正四位上下  
也タトイ中將ニ任ズトイハ凡位階  
四位十六殿上人ト云ニ位ニ叙ス  
六公卿ト云ニ位中將ハ大臣ノ子  
若ハ孫ナラ子ハ三位ニ叙スル也  
タハス公武共ニ同前也今武家  
ニテモ 公方家ノ御連枝衛三

中將

參議

人家越後ノ中將殿ヨリ外ニハ  
三位中將侍ラズ是大臣ノ御  
子又ハ御孫タルニナリ唐名只羽  
林中即將宰相トモ云フ  
相當正四位下又ハ從三位也  
參議ニ任ズハ四位ニテモ公卿  
ト云況ヤ三位シヤ是ヲ以テ三  
位四位ノ差別ヲシラン為ニ位署  
書時三位ノ參議ニ姓ノ朝臣ト  
テタトハ藤原朝臣定長ト書



四位ノ參議ニ某ノ朝臣トテ夕  
トハ藤原定長朝臣ト書是  
又俗ニ氏ノ朝臣名ノ朝臣ト云  
氏ノ朝臣名ノ朝臣ハ參議ハカ  
限也諸官ニ書ベカラス其  
外ハ從上位ヨリ以下初位ニ至  
テ何モ氏ノ朝臣ニ書是書禮  
大事也唐名ノ諫議大夫八  
座トモ云定數ハ八人也

中納言

相當從二位也今ノ武家ハ大

形正二位也禁中ニ中納言職掌  
ハ上大臣大納言ノ言ヲ下ヘ上へ納  
侍ルリ定數ハ是モ八人也武家ニ  
不然也唐名ヲ黃門ト云今ノ中納  
言何モ權也大納言同前也公武共  
正ハ近代ハ少キ也

大納言

相當正三位近代ハ正二位モリ禁中  
ニ大納言職掌ハ大臣ト參リテ政  
務ヲ聞大臣不參時ハ大臣ニカワ  
リテ万事ヲ治メ侍ル也是故唐名

大將

ヲ亞相ト云アハ亞相トハ大臣ニツグ上云心也惣ソウ又大納言ナノリ攝家清花大臣家外ハ此官ヲ以先途トス武家ニモ公方家ノ外カタトヒ御連枝成トイフ大納言ヨリ上ウへホルルトハアタイ侍シラズ今テ武家又ハ羽林名家ウリ其外カ公家達皆公方攝家ノ被官ヒ同前ト故ニ大納言ヲ以テ極官トシ侍牛ウシリ定數十人也武家ハ不然也相當從二位也是モ本式ホ式シニハ右近衛木

内大臣

將ト云武官ノ極官也文官ノ大政大臣ニ准ス公方攝家清花ノ外カ此官ニ任ズス又不能也大臣ヨリ相當ハ劣リタレ厄万事ノ作法大臣ニカリルル又ナレ大臣ニハ任ズレ厄大將ニ至ルルトハカタキキトニテ侍ル也禁中ニテ兵仗ヒヲ帶シ弓箭ユヲ持中少將將監等シヲ引具グシテ天子ヲ親衛侍ル也大將ハ大納言大臣近ノ兼官也攝家ハ多分

左大将ヲ兼テカ子 公方攝家清花  
久々大納言カ内大臣ノ時カ又ハ右  
大臣左大臣迄此官ヲ兼テ子 惣  
别大将ヲ兼テルハ大ナル規模也  
唐名ハ大樹幕下又ハ羽林大将  
軍ト云フ

内大臣

相當從二位近代公正二位モアリ  
令外ノ官也又ハ負ノ外ノ大臣トテ  
職掌ハ侍ラズ唐名ハ内府ト云又  
准大臣ト云アリ大納言ト内太

右大臣

臣ノ下也毛 猶以職掌ナシ  
相當正從二位右大臣禁中ニテ  
万政務ヲ掌リ侍ル也左大臣名 関  
白タル時ハ左大臣ノ讓ヲ得テ一ノ  
上ノゴトクニ諸事ヲ掌ル也武家ニハ  
不然唐名右府

左大臣

相當正二位近代ハ從一位モアリ  
左大臣ハ禁中ニテ諸ノ政奉行ス  
左大臣ニハ一ノ上ノ宣下ト云有  
第一ノ臣家十ニハ官中ノ夏悉ク

沙汰侍ル也何<sup>レ</sup>モ禁中ノ公事  
ハ<sup>レ</sup>上<sup>ニ</sup>参<sup>リ</sup>テ行事<sup>ト</sup>也<sup>レ</sup>不<sup>レ</sup>参<sup>ル</sup>時  
ハ次<sup>ニ</sup>大臣又ハ大中納言<sup>ト</sup>モ奉行  
ス<sup>ル</sup>又<sup>ニ</sup>侍<sup>ル</sup>是<sup>レ</sup>故<sup>ニ</sup>一<sup>ノ</sup>上<sup>ト</sup>号<sup>ニ</sup>シ  
テ<sup>モ</sup>一<sup>ノ</sup>仁<sup>ト</sup>撰<sup>シ</sup>テ任<sup>ジ</sup>侍<sup>ル</sup>也<sup>レ</sup>唐名  
尤<sup>カ</sup>府

大政大臣相當從上<sup>ニ</sup>位文官ノ極官也<sup>レ</sup>惣<sup>ジ</sup>

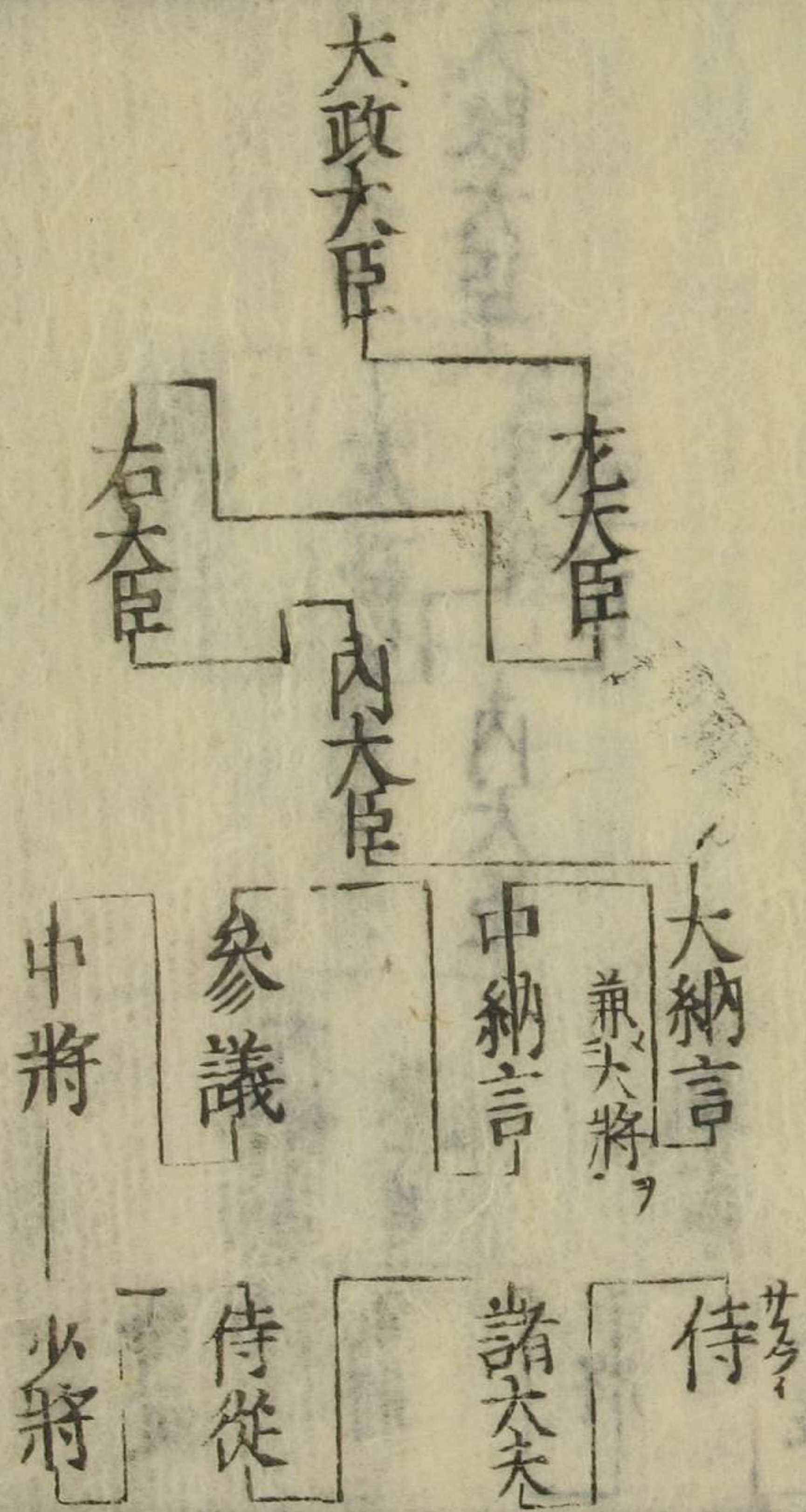
大政

テ此<sup>ノ</sup>官任<sup>ズ</sup>ル人ハ 天子ノ御  
師範<sup>ト</sup>シテ一夫四海<sup>ニ</sup>此人ヲ以  
テ規模<sup>ト</sup>スル<sup>ニ</sup>ハ如此<sup>ノ</sup>徳<sup>ト</sup>十<sup>ノ</sup>六

大政

任<sup>ズ</sup>ル<sup>ノ</sup>アタハズ<sup>シ</sup>テ此<sup>ノ</sup>官ヲ則<sup>カ</sup>闕  
テ<sup>モ</sup>ケル<sup>ノ</sup>故<sup>ニ</sup>則<sup>カ</sup>闕<sup>ノ</sup>官ト云<sup>フ</sup>重貴  
ベキ官也<sup>レ</sup>此<sup>ノ</sup>官ハ重<sup>キ</sup>人<sup>ニ</sup>テア<sup>リ</sup>リ  
實<sup>キ</sup>キ<sup>ニ</sup>ハ職掌<sup>ハ</sup>ナキ也<sup>レ</sup>百有餘  
年以來<sup>ハ</sup>大閤秀吉<sup>ト</sup>公台徳院  
秀忠<sup>ト</sup>公ヨリ外<sup>ニ</sup>存生<sup>ノ</sup>大政大臣  
ノ例<sup>ナ</sup>レ多<sup>ク</sup>皆<sup>テ</sup>是<sup>レ</sup>贈官也<sup>レ</sup>近代ハ  
元龍<sup>ノ</sup>悔<sup>ノ</sup>クタカ<sup>ニ</sup>正<sup>シ</sup>位<sup>ト</sup>大政大  
臣ハ闕<sup>テ</sup>アル<sup>ト</sup>見<sup>ヘ</sup>タリ<sup>ニ</sup>大政大臣  
左右大臣ヲ謂<sup>フ</sup>ニ公<sup>ト</sup>漢和共<sup>ニ</sup>不<sup>ル</sup>

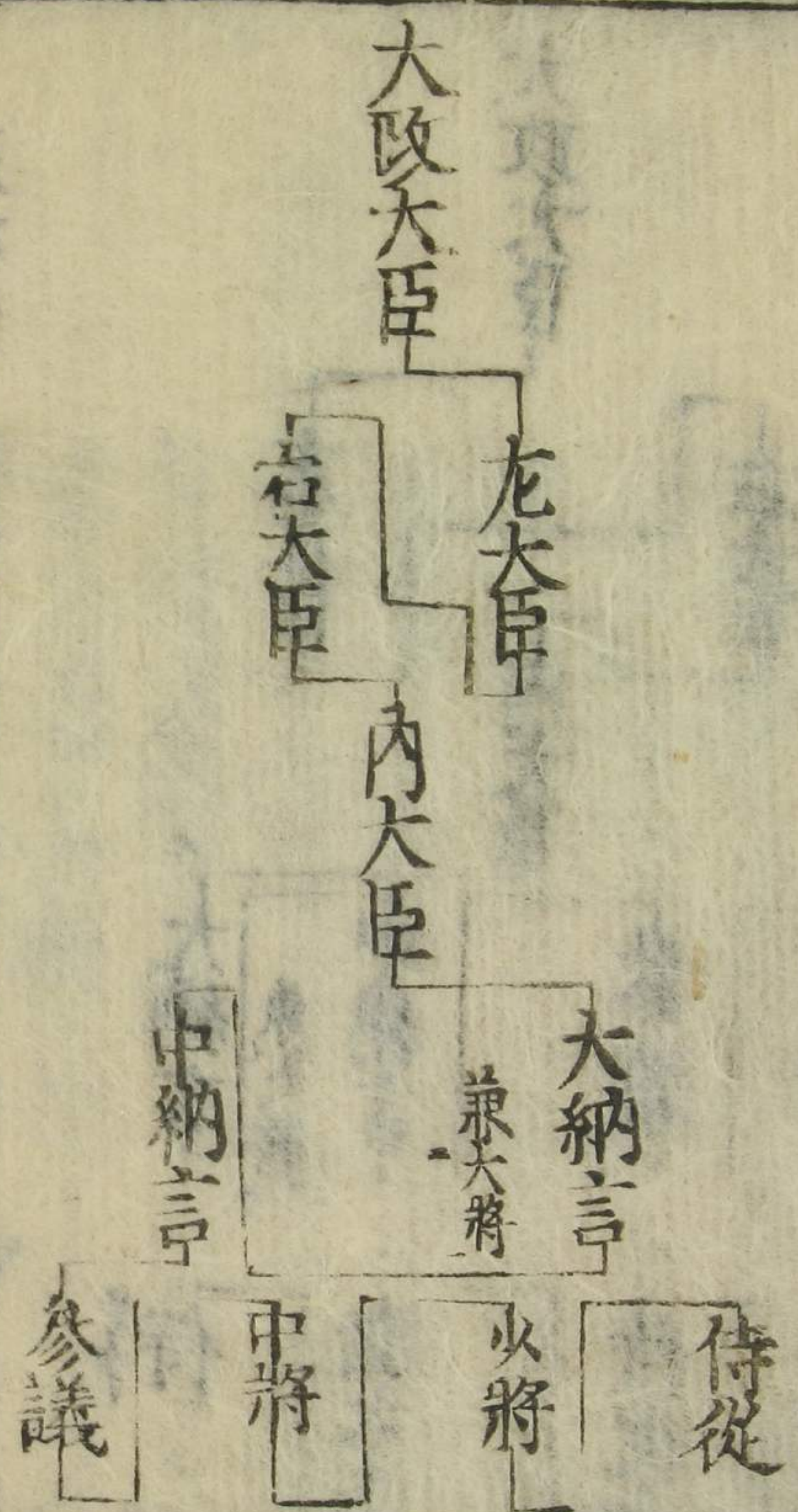
羽林家并武家任官之圖



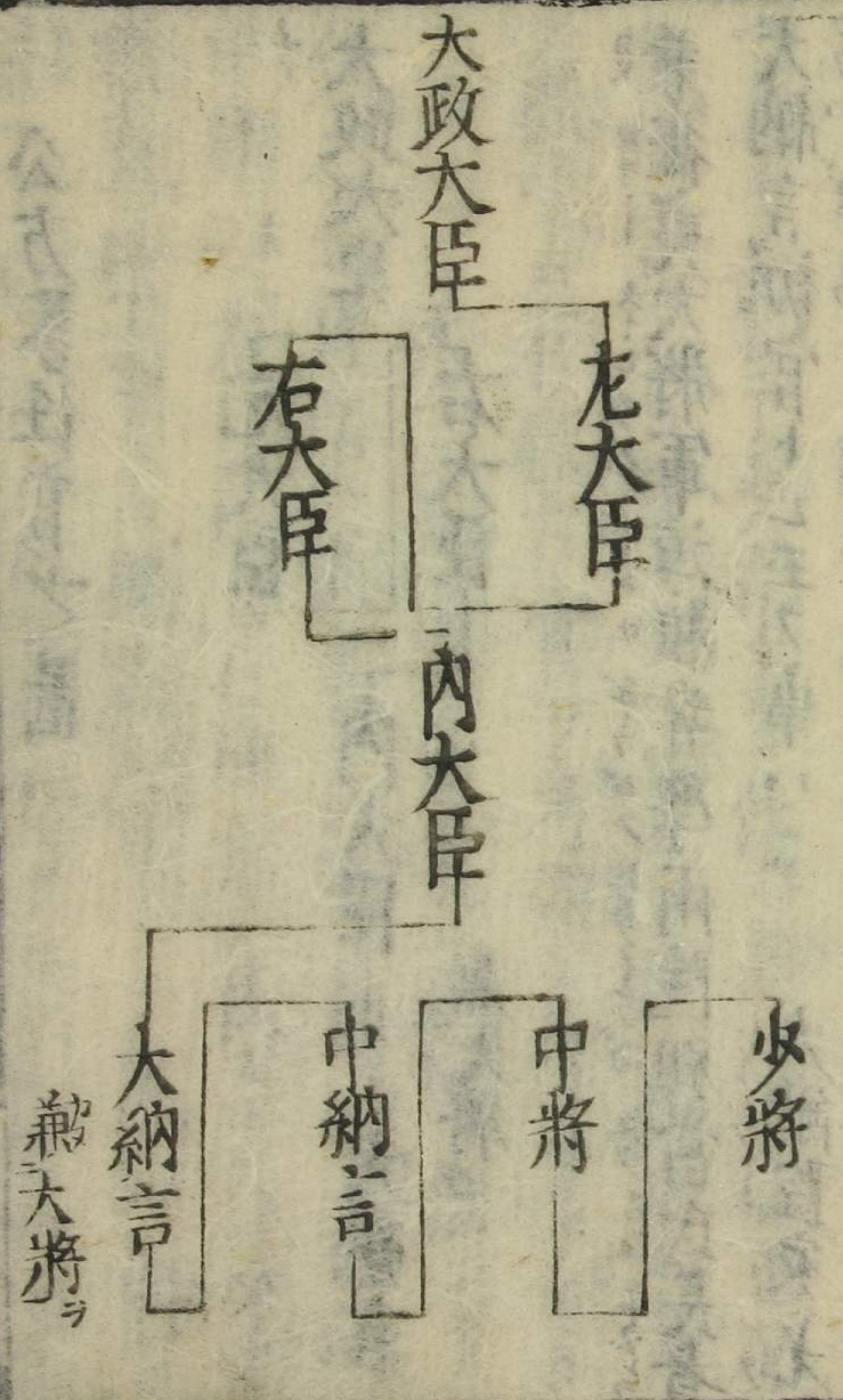
可混餘官大政大臣ヲ大師ト云ハ  
 八御世モアリ唐名ハ相國ト云フ

卷之三十一

清花任官之圖



攝家任官之局



公方家任官之旨

大政大臣

左大臣

内大臣

大納言

右大臣

兼大將

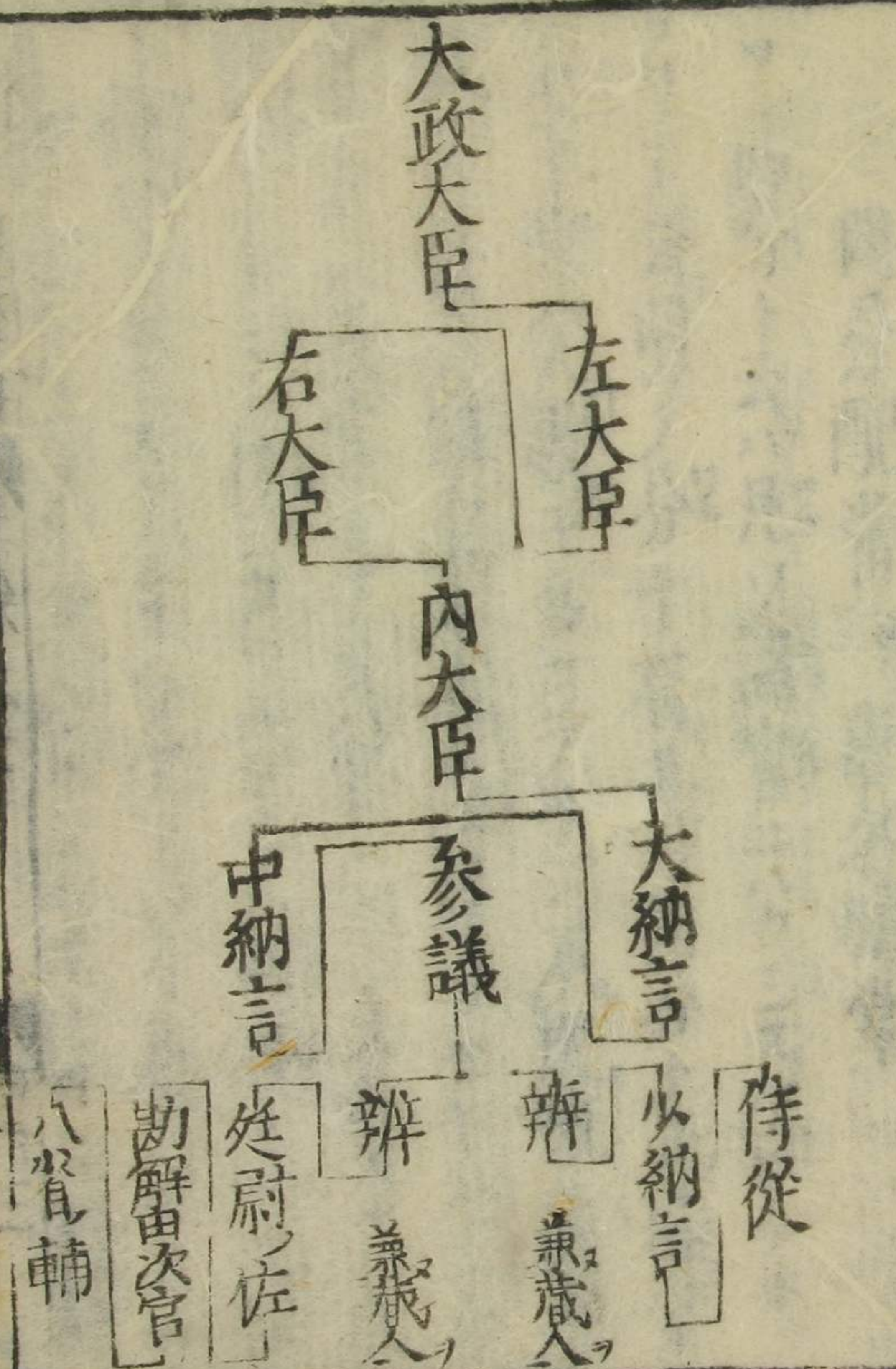
兼征夷大將軍淳和并學兩院別當氏長者  
大納言初官トシ玉フ事ハ  
公御元服ノ御時ヨリ如此也  
大猷院家光

名家任官之次第

一ツレ名家ノ任官之次第ハ侍從ニシテ少將  
ヘウツラスレテ少納言ニ任ジ弁ヘウツル也又  
少納言ヲ不歴メ直ニ弁ニモ任ジ侍ル也弁  
ノ職掌ハ有職古實ヲ考辨テ政教カシ司ル  
ナリ  
天子ニ近習ノ官也其仁ヲ撰ニテ  
任之也唐名ハ尚書ト云權ノ辨右少辨左  
中辨右大弁已上七辨弁ニ任スル人ハ必兼  
職事職事トハ謂蔵人弁ニテ蔵人ノ頭  
兼ルヲ頭ノ弁ト云頭ハ二人アリ一人羽林家中

將ノ時兼之、是ヲ頭ノ中將ト云、一人ハ名家ヨ  
 リ兼之、弁官ヲ歴テ參議ニウツリ中納言  
 大納言大臣ニ任ズルヲ名家ノ任官ノ次第  
 ト云フ今禁中ニテモ職事ト弁ヲ云フ傳奏  
 ト万事ノ埒ヲ明侍ルニヨツテ當世ハ猶以テ  
 重職也又八省ノ輔任ニテ勅解由ノ次官ニ  
 ウツリ廷尉佐ニ檢非違使判官任レ五位ノ藏人ニテ弁  
 ニ任レテ頭ヲ經テ參議ニウツル也如此ニモ昇  
 進レ侍ルナリコトハ公家ノ任官ニシテ武家ノ急  
 務ニアラスカレ氏心得ノ爲ニ記之ヲ

名家任官之圖





職原抄支流卷之二終

職原抄支流卷之二

四分ゴク配當ハク并ニカラナニヨク唐名職堂

ソレ四分ト云ハ凡ソ諸官ニハカニスケゼウサ  
クワト云四ツノ分千有是ヲ四分ト云職堂  
ノ多キ官ハ人數モ多カラザレハ不成故ニ四分  
有又大少ノ權官モ有役目スクナキハ三分  
ナリカニハ長官トテ其官ノカシラ也スケハ次  
官トテカミノ役ニカワルゼウハ判官トテ其官  
ノ役目ヲカニスケヨリワケテゼウ是ヲツトム  
是故ニゼウハニツリゴトビトヨムサクワハ主典ハ

トテフノ官ノ筆取也無官ノ人ハ此四分ノ字ヲ  
不書也又唐名ノ吏ハ四分共ニ少々ノカハ  
リ侍共武家ノ人々トナハヤスキ為ニ俗ニ呼  
付タル計アラハス此四分ノカミスケセウサク  
ワシノ字ハ省諸寮諸職諸司衛府諸國ツ  
トクニ應文字カリレリ初學ノ為ニ記之號

八省

一八省トハ官人ノ居所ヲ名也又省ヲツカ  
サドルトヨミテ此役ヲツカサドルト云ノ心也  
此省ハ有故ハ省ト云諸官ハ多クハ八省

ノ被官也八省ノ卿ハ相當正四位也大輔

丞録ハ相當次第ニ分レリ諸官何モ如此也

中務

中書

中務ハ禁中ニテ女中女中方ノ事ヲ掌ル也七  
省ヨリ相當高シ中務卿ハ親王ノ任官  
ニシテ平人任之例ナシ大輔ヨリ以下ハ公

武臣ニ任之也

式部

吏部

式部ハ文官ノカシラニメ文官ノ身進事  
卿悉掌之式部卿ハ是モ親王ノ任官

三平人不任之少太輔ヨリ以下誰々  
毛任スル也

治部

禮部

治部ハ寺社ノ事音樂ノ事廂陵等ノ  
事禮法ノ事ヲ掌也

民部

戸部

民部ハ國々ノ繪圖并民家人畜負數  
皆此官ノ掌所也

兵部

兵部

兵部ハ武官ノカシラニテ武家ノ昇進又ハ

軍陳人馬并兵具等事ニテ皆掌也此  
卿ニ親王モ任ジ玉フ也

刑部

刑部

刑部ハ獄ヲ斷リ罪人ヲ刑シ贖銅ナドノ  
事皆掌之但中比ヨリ古ノ職掌多クハ  
檢非違使ノ別當ニウツル也

大藏

大府

大藏ハ諸國ノ御調物又切府ノ手形ヲ  
トヲ出事ヲ掌也

宮内

工部

司農

宮内八百工ノ事ヲ掌ル也又女中メカ方カタ度タクヲモ少々シラ掌ル也

郷キョウ 大輔ダイボ 少輔ショボ 丞シヨウ 録ロク

諸寮シヨウリョウ

一 諸寮上八右ノ八省ノ多ハ被官ニテ八省ノ職掌ノ内ヲ分テ掌之也寮ハツクテトヨム諸寮ノ内ニニテ武家ニ用ル官計ハカリヲアケテ餘ハ畧之諸職諸司モ如此也諸寮ノ頭ハ多分相當五位也

大舍人オホセトリ 宮園ミヤノ

圖書トウブ 大舍人ハ禁中ノ宿直又ハ走使ノ事ヲ掌ル也

尚書シヨウシヨ 御書物ミガキモノ 佛像ブツゾウ 紙筆シテ 墨等スミトウノ類ヲ司ル

内藏ウチゾウ 倉部クラベ 少府セウフ

内藏ハ御服ミウラカ 金銀珠玉等ノ事ヲ司ル也

縫殿ヌイデン 尚衣シヨウイ

縫殿ハ御衣類ヲ裁縫タテ 度タクヲ掌ル也

内匠ウチクシ 少府セウフ

内匠ハ工匠ノ事ヲ掌ル也中比ヨリ多ハ木工モク修理此度ヲ掌ル也

大學

國子

大學ハ學者ニ儒經ヲ教ヘ聖人ノ像ヲ祭ル等ノ事ヲ掌ル也

雅樂

雅樂ハ音樂ノ事ヲ掌ル也

玄籥

鴻臚

玄籥ハ異朝ヨリノ使ノ事又ハ寺社ノ事ヲ掌ル也

主計

度支

金部

主計ハ天下ノ入出家又ハ御調物ノ事ヲ掌ル也

主税

屯田

倉部

主税ハ年貢米ノ事ヲ掌ル也

木工

將作

木工ハ作事ノ事ヲ掌ル也

大炊

太倉

大炊ハ諸國ノ春米雜穀又ハ公私ノ熟食等ノ事ヲ掌ル也

主殿

尚舍

主殿ハ殿下ヲ掃除シ燈燭等ノ事ヲ掌ル也

典藥

大醫

尚藥

典藥ハ天子（御藥ヲ）又諸人療治藥工  
ニ等ノ吏又司ル也

掃部

酒掃

掃部ハ掃除又ハ席ヲニキマデ簾ナトシカ  
クルトヲ掌ル也

齋宮

齋宮ハ伊勢ノ齋宮ニキマデ皇太后又司ル

右馬

典厩

左右馬ハ天子ノ御馬ノ諸事ヲ掌ル也

兵庫

武庫

兵庫ハ武具ノ事ヲ掌ル

頭 助 魁 屬

諸職

一 諸職ハ八省ノ下諸寮ノ上ハ也是故ニ諸職

ノ大夫ハ從四位也職モツカサコム

大膳

光録

大官

天子ノ御膳其外神膳等ノ事ヲ司ル也大

膳ヨリ進所ノ御膳ハソカナルニヨツテ

天子ノキコシ玉ヲ事ナレソキハソムルバカリ

也内膳ヨリソフル所ノ御膳ヲ事ナレ侍也

右京ミナミノキョウ

京兆キョウテウ

馮翊ホウキョク

京キョウ之ノ所トシテ奉行ヲ也ナリ東トシテ西トシテ分リテ東京トシテ西トシテ京トシテ右トシテ京トシテ堂トシテ集ル也ナリ

修理シウリ

匠作シヤウサク

禁中キンチュウハカリノ作事ヲ修理シノ事ヲ掌ル也ナリ

大皇太后宮オホノミコノノミヤ

天子テンシノ御祖母ノミヤハハノ事ヲ掌ル也ナリ

皇太后宮ミコノノミヤ

天子テンシノ御母ノミヤハハノ事ヲ掌ル也ナリ

皇后宮クワンノミヤ

天子テンシノ御后ノミヤハハノ事ヲ掌ル也ナリ

中宮ナカノミヤ

皇后宮クワンノミヤニ同シシ皇后宮ノミヤノ官ナリアル時ハ中宮ノミヤノ

官ナリナレ中宮ノミヤノ官ナリ有ル時ハ皇后宮ノミヤノ官ナリナレ同役ナリ

左ノカ故ナリ也ナリ

春宮ハルノミヤ

春坊ハルノミヤ

太子タシノ夏ノヲ掌ル是レ太子ノ御守也

太夫タフ 亮シヤウ 大進オホシジ 屬リヤク

或問オロトモト太夫ノヲダイブトヨニスレテ太夫トヨムニテ左

衛門ヱモン太夫ノ左ノ近ノ太夫ノ掃部ノ太夫トト云フアリ

或問オロトモト

卷之三

三十一

此謂如何答曰官ノ時ハ大夫トヨム諸職ニ限  
也大夫トヨム時ハ五位ノ一也物心レテ大夫ハ五  
位ノ通稱也弘安禮節ナドニモ五位ノ古クハ太  
夫トカケリタトハ左衛門尉ハ六位也左衛門  
尉ニ任ビタル人五位ニ叙スル其仁ヲ左衛門  
大夫ト云源ノ義經ハ左衛門ノ尉ニテ檢非違  
使ノ判官ヲ兼五位ニ叙シ至ハ大夫判官ト云  
左近將監掃部助モ從ハ六位也五位ニ叙スルハ  
左近大夫掃部大夫ト云也其外ニモ大夫ト云  
ハ五位ト知玉スレ古ハ六位田トテ五位ニ叙

スハ田八町ヲ取レリ今ノ知行取トシテ六位ニ  
叙ラトスズ位相應ニ叙ラトシテ今ノ切米取  
トシテ是故ニ五位ニ叙スルハ叙爵スルトテ大  
ニ規模トシ侍ル也

諸司

一諸司ハ多ハ八省ノ被官ニテ諸寮ヨリ下  
リ是故ニ諸司正ハ相當正六位也職堂  
モスクナキ故ニ諸司ハスケナクメ正佐令  
史三分ガリ也司ハツカサトヨムナリ

衛人

布護



禁中ノ門外ノ固スルヲツカサドル也又行幸ノ時前走ヲ非常ライニスル也古ハ衛人ハ大勢ヨリ取分大隅薩摩ヨリ献スル也此隼人司國ヨリ上ル隼人ノ奉行也

囚獄

断獄

織部

織染

罪人ヲイミシメトラスヘ又ハ籠舎ノ事ヲ司也御服ヲイリ又ハ染ルヲ司也

内膳

尚食

天子ノ御膳ノ吏又ハ先嘗試ノ吏ヲ司也

造酒

良醞

御酒ノ事ヲ司也

采女

古ハ諸國ヨリ采女トテ幾女ヲ御調物ニ奉ル也采女正ハ其采女ヲ奉行也

主水

膳部

上林

氷室ノ事御井ノ氷汲事正月七種粥等吏ヲ司也

東西市

市令

京中ノ市ノ吏ヲ掌ル也京ヲニツニ分テ

主膳 東京東市正西京西市正司也

春宮ノ御膳ノ長ヲ司ル也

正 佐 令史 主殿 典設

主馬

春宮ノ御馬ノ事ヲ司ル也

首 佐 令史

衛府

一 衛府ハ武官也兵仗ヲ帶シテ禁中ノ御門ヲ衛ル役也衛府モ八省ノ下諸寮ノ

右 尙

上ニテ諸職上同等也是故ニ衛府督相  
當從四位也也衛府ノ數員多ク兼官也  
數員上云ハ則テ衛門ノ事也

金吾 監門

禁中ノ御門ヲモルヲ掌ル也右衛門下  
書テ右ノ字ヲ畧シテ衛門ト云ムヲ書也右  
兵衛モ右ヲ畧シテ兵衛ト讀也

右 尙

兵衛

武衛

御門ヲモリ又ハ兵士ヲ門々ハ分テ出入  
ヲ撰也大政衛門同前也相當ノ等ナ

兵衛八衛門ヨリ心管持必カ力足也

督 佐 尉 志

諸國

一 諸國ト云ハ受領ノ支也受領トハ國司一  
成事也古ハ國司ノトリ分ハ大國ハ一町  
六段上國ハ二町二段中國ハ二町下國ハ  
一町六段也相當ハ大國ノ守ハ從五位上  
上國ノ守ハ從五位下中國ノ守ハ正六位下  
下國ノ守ハ從六位下也相當モ卑トリ  
分少ナル故ニ外官ト名付テイヤク侍心

也守護ト云夏ハ右大將源ノ頼朝ヨ  
リ始リタリソノ國ノ五分一ヲトリ今  
ノ郡代々官ナドゴトクニ國司モ守  
護モ其國ノ政務ヲ執行ノ計也公家  
ヨリ佐スルヲ國司ト云武家ヨリラク多守  
護ト云一國二國司守護兩人ニリテ政  
務ヲ聞侍リ也武家ハ次第ニツク  
ク公家ハ次第ニ衰テ今ハ國司ト云モ  
ノ子レ今ノ國主ハ皆守護ト云モノ也コノ  
ユニ大上中國ノ沙汰ニモ不及ヤウニナリ

也諸國ノ内ニテ常陸上野上総此ノ三箇  
國ノ守ハ古ヘヨリ親王ノ任國ニテ平人ノ  
任ズル事ナシ今モ其例ニテ此ノ三箇國ヲ  
ハ必ズ任ジテ守ニハ不任ナリ此ノ三箇國ノ  
守ニカギリテ大守ト云親王ノ國ナル故也  
守ノ唐名ヲハ太守國宰牧宰刺史ナ  
ド、云也近代國守ヲ太守ト云二名也  
諸國ニ四分アリ記左  
守ハ  
給事中

少納言

鈴印等ノ眞ヲ掌ル也 天子ノ寶印ヲ  
ツカサシ居テ押シ又ハ時ヲシラズル鈴ヲツリ  
其外道中ニテ傳馬早御トドク時ニラル鈴十  
ドク掌ル也

外記

外史

外記ハ筆取ノ職ナリ禁中ニテ起リタル事  
又時ニ臨テ有之公事除目叙位叙官  
等ノ事トツカサシトル也是故官中ノ有職  
故實ヲヨク知テ物能書字ハ不能事也惣シ  
テ禁中ニテ筆取ハ人生二十人大政官

職官考 卷之三十三 册四

上テ大臣大納言參議辨士トシ居侍ル所也  
ソノ所ニ居物ヲ書也外記大史ハ其物書キカ  
シラ也右筆ト云フハ武家ノ筆取ヲ云願朝  
ノ御持邦通ト云モノ右筆ノ初也禁中ニテハ  
史官ト云頭ヲ外記官務ト云大史ト云是皆筆  
ヲトシル者ノ名也サクソト云モ其官々々  
ニテノ筆取ノ職也

内記

柱下

勅書詔書宣命トテ天子ヨリ出ル文ノ  
下書草ト出ス又テ掌ル也

監物

城門

禁中ノ門々ノ鑰ヲ司ル役也

彈正

霜臺

憲臺

彈正三

大弐

大弐

疏トテ四分アリハ

管ヨリ上也彈正ノ弐ハ親主ナラテハ任

至フヲナシ大弐ヨリ以下ハ公武任ズル

也弐ハ相當從ニ位也此官ニ任ズル人ハ京

中貴賤非禮非義ヲ彈正侍ル也又ハ京中

ヲ巡リテタス又テ掌ル也

勅解由

勾勅

此官ニモ長官次官判官主典上テ四分アリ  
諸職上同等ニテ從四位也ニ天下ノ勤定ヲ聞  
テ滞リナケル点ヲカケテ出スラ掌ル也

檢非違使

使廳

別當 依判官尉志上テ四分アルナリ此官

ノ別當ハ一天下ノ惣奉行心ニテカノ公事ヲ  
断リ刑罰ヲ行フ職成故ニヨリ外戚勢ヲ官

也大納言中納言々々ノ衛府ノ督ヲ兼テ

此官ヲ帶スル也

藏人

別當頭アル也別當ハ執柄ノ外第上ノ大臣帶  
之頭兼官也余ニテ藏人ヲ兼タルラ職

事一云今ニ禁中ニ威勢有ル官也

將監

校尉

此官ハ帶兵仗持弓以箭禁中ノ庭上ニテ

守ルキリ本式ニ右近衛將監ト云此時ハ唐

名親衛校尉ト云大將中將少將堂上

九故ニ御殿ニテ 天ヲテフ衛ル也將監

將曹ハ地下ナル故ニ御庭ニアリテ衛リ侍ル

也相當ハ從六位上也

右ニ記ス所ハ武家當要ノ官言ハ粹拔ニテ職  
掌モ初學ノ心口待安キ為ニ令義解職原  
抄ヲ畧シテ是ヲアラフラスナリ

續書

職原抄支流卷之三終



職原抄支流

坤



職原抄支流卷之四

天子

一ツレ 天子トハ當人テヲ申レ奉ル又ハ 皇帝

主上 天皇 皇 御門内 御位 陛下

一人 天子ノ御身 又ハ攝政ノ位トド、由事皆 天子ノ御

事也其外多雖有之思是之侍ル御實名

ヲ 俗ニ名 御諱ト申レ奉ル也公方モ同前也

一御代ツツギ王フ皇子内々ニテ 御位ニ即セ玉

フツ 踐祚ト云 踐祚ト 祚ヲ 踐トヨムナリ紫

震殿へ出御ナツテ天ホク入々ニ知セ玉フテ



式々二位三郎セ玉フヲ即位ト云フ日本ノ神々  
即位ノ由ヲ告玉フ夏ヲ大嘗會ト云フ御  
即位七月ヨリ内ナハ大嘗會年内ニアリ  
七月ヨリ以後ナハ大嘗會翌年ニ執行シ  
侍ルナリ御即位大嘗會規式攝関ノ職  
掌ナリ

一 天子ノ御前ヲ禁中禁裡非常又流人ヲ  
宮中宮内内裏殿上雲上ナト申レ  
奉ルカリソメニ住玉フ所ニ皇居ト申奉也  
一 内裏へ参ルヲ参内ト云御殿内ニ住玉フ

衆中ヲ堂上衆ト云御殿外ニ住玉奉ル  
フ地下ト云フ御殿ノ縁ニ昇ラ外ノ昇殿ヲ  
聽カルト云御殿ノ内ニ参ル内ノ昇殿ヲ  
聽カルト云内外共ニ何モ昇殿スト云公武  
共ニ三位以上ヲ公卿大臣侍ヲ大中納言ト云四位  
五位中少將ヲ殿上人ト云位ハ二位三位ニテ  
公卿ノ官ニ任非参議ト云惣レテ位ニハ  
昇リ安ク官ニホリガタレ官ニノボルヲ任ズ  
ト云位ニノボルヲ叙スルト云フ  
一 勅ヲ奉ルテ文子認侍ルヲ詔書 綸旨公宣

宣命位記勅書ナト、云何モ奉リ申入ルニ  
ヨリテ文言書様大習有之自遊タルハ御  
震筆御震翰勅筆ナド、申也

一行幸ト六キテカイワイストヨム御了ルキノ良  
也 天子ノ行玉ヲ所ハ幸ヲ受ル故ニ申レ侍  
ル也歸ラセ玉ヲ還幸ト申也 仙洞へ

御出ヲ朝觀ノ行幸ト申レ他ヘウツリ玉ヲ  
遷幸ト申也

一鳳輦 御輿ノ龍蹄 御馬ノ御叙供御 御食ノ御惱  
奏達 奏聞 教慮 教感 教覽 逆鱗

天裁 綸言 玉躰 御遷 勅許 勅裁 勅任  
勅願 勅使 夫形如此也 教勅ノ二字ヲ付

侍バ 天子ノ御事也 天子ヲハ龍ニ比天ニ  
タトヘ口ニタトヘ侍ル公卿ヲ月卿ト云殿上人

ヲ雲客ト云モ右ノ心得也御基所ノ其至盤  
所御膳所ヲ朝餉評定所記録所女中ノ部

屋ヲ對屋御亭ヲ鈞殿御座所ヲ御座御  
寮所ヲ夜殿御番ヲ宿直ト申ス如此ノ類

多ク有増コ、ニ記レ侍ル也 院

一院ハ天子御位ヲガレ玉フヲ申ス也又ハ

太上天皇 太上帝院 上皇ナト、申奉ル

御カオリヲコロレ玉ハ 法皇ト申也御所ニハ

院御所仙洞仙院ナト、申也 院御座時

當今位ヲカレ玉ハ 新院ト申 前院ニハ

本院ト申ニ奉ル也

一院ハ參少院參ト云院ハ付奉公家ヲ院參

衆ト云フ 院御言葉ヲ奉テ文ニ認メ侍

ルヲ院宣ト云御使ヌ院使云院ノ他所ハ御

出ヲ御幸ト申奉ルナリ惣テ上古ハ

院中ニテ政務ヲ聞玉フ事ト云院ノ初ハ冷泉

院也中古ヨリ政務ヲ院中ニテ聞玉イテ當今

ハ多クナキガゴトニ今ニ至ルニテ其分ニテ侍ル也

冷泉院ヨリコノカタ安徳天皇後醍醐天皇後村

上天皇討ヲ天皇ト申ニ奉ル其外ハ音院号ト

申ニ奉ル也

春宮 東宮尾 書也

一春宮トハ 天子ノ皇子ノ中ニ御世フツガセ玉フコ

申ニ侍ル又ハ太子儲君ナト、申也東宮ニハ后昭

ノ皇子ヲ撰テタテ申也御所ニハ坊ト申也東宮

御部屋ニシテスハ坊ト申シ公家ヲハ御方ト云フ也  
太子ノ御言兼ヲ文ニシテタタルヲ令旨ト申入宮  
ト連モ同前

親王并宮

一親主トハ當今ノ御事有時ノ用意ニ皇子ノ中ヲ  
撰テ親主人宜旨ヲ蒙ラセ立由也后腹ノ親  
王ハ三品ニ叙シヨリ次第ニ昇進シ玉フ自餘  
四品ニ叙シテ昇進シ玉フ四品トハ四位之事也人臣  
ノゴトクニ正從上トテ差別也四位ヨリ一品ニテハ  
五品ト云フハ午シ五品ト云官ハ彈正尹

務御式部御兵部御トトニ任シ受領ハ常陸大守  
上野大守上総大守ニ任シ玉フ釋門ニ入テ寺ヲ持  
玉ハ法親王ト申シテ門跡ト号スル也門跡ト云  
五ノ卷ニ委ク記之宜旨ヲ蒙ルニ一世ノ親王ニ再  
親主ト云事有一世ノ親主ハ其身一代ハカリ親  
王ト侍ルヲ申人行平業平ノ御父安保親王ニ  
コトナ是也二世ノ親主ト申スハ二代ノ間親王ニ  
ナリ玉アラフニ定親王ハ親王雲是レハ少成事也  
今伏見院殿定親王ニテ永代親王ニナラセ  
侍ル也

皇女モ親王ノ宣旨ヲ蒙リ至テ事有ル式子内親王  
トドノ類也親王ノ子ハ入臣ニテ公家衆同前ニ  
奉公申ケル也親王ノ唐名ヲ竹園ト申ス也  
宮トハ 天子ノ位ニモ即セ玉ハス又ハ親王ノ宣旨モ  
蒙リ玉ハスハ悉ク宮ト申也又ハ皇子諸王トモ  
云一ノ宮二ノ宮トド申ス也女子ヲハ女一ノ宮  
女二ノ宮トド申也皇子人臣ニテ玉ヲ時源  
ノ姓ヲタテウツテ人臣ノ官位ヲ昇進シ玉ヲ姓ヲ  
玉ハリテ後ハ公家衆ニカケル也惣ニハ皇子ノ  
大臣ニテ至リ玉ヲハミケル也多クハ淺官也今

ノ公家衆藤氏外ハ多クハ王孫也皇子ノ無官  
無位ノ時ヲ宮ト申ス也皇王ノ通称ニテ侍ル也  
他所ヘユキ玉ヲ行啓ト申シ死シテヲ薨御ト  
云后キモ同前ニ申ス也

國母并后

一國母トハ 天子ノ御母也又ハ 女院皇太后  
宮トド申ス也御子 天子ニシテハリ玉ハ御  
母ヲ尊テ院号ヲ蒙ラセ玉自下何門院ト申  
シ侍ル御母方ノ祖父祖母ヲ外祖母ト申ス  
惣ニテ御母方ノ御親類ヲ御外戚ト申也

一后ハ天子ノ御妻ノ直ナリ后宮中宮后妃  
ナド申也中宮初テ内裏へ参リ玉ヲ御入  
内ト申攝家清花ノ御女后キハツナワリ玉ヲ  
近代公方家ノ御女モ参リ玉ヲ其外ハ女御  
准后更衣ナド申ス也

一東宮ノ御妻ヲ御息所攝政関白ノ妻ヲ北政  
昭公ガ并大臣ノ妻ヲ御妻所トテ

一勾當内侍ハ内侍掌ノ中第一臈ヲ云也長  
橋局ニ居侍ルニ長橋ノ局トモ申也

天子ハ公方家ヨリ内々取次ハ勾當内侍ニ

侍ル也是故ニ諸家ヨリモ大取ノ事ハ皆勾當ノ  
内侍取次也勾當内侍勅ヲ奉リテ書出文ヲ  
奉書ト云沙門醫者等ノ官位多ク内侍ノ  
取次ニテ上卿へ申傳侍也

公方并征夷將軍

一公方ト云事ハ等持院尊氏公ノ嫡孫鹿苑院義  
満公比ヨリ初リテ公方ト申也公方タル人必ズ  
征夷將軍ヲ兼玉フ惣ニテ將軍ハ相當從五位  
ナレ故ニ職ニキレ大ノ字加レハ相當ノ沙汰ナレ  
鎮守府將軍ハ陸奥ニ居テ遠勅ノ者ヲ平ケリ其

後ハ多ク陸奥守タル人兼之征夷將軍ハ日本  
 武尊 景行天子ヨリ始リテ兵事アルトキニソシテ  
 文屋綿丸任之入命絶レテ木  
 曾尤馬頭義仲 義賢次男 暫任之其後權大納言  
 石近衛大將源頼朝 義朝三男 任之長子  
 衛門督頼家 卿次男 尤大臣實朝 公相續傳之  
 彼父子ノ戚ニラソレテ外ニ聖者ナカリキ父子  
 絶ノ後權大納言頼經 卿鎌倉ヘ下テ任之既  
 問曰頼經 卿ハ関白道家公ノ四男ニシテ藤氏  
 トイカナルニハ二頼朝 卿ノ跡ヲツゲルヤト曰頼

朝卿ノ姉ハ權中納言藤原能保 卿室トナル能  
 保卿ノ女後京極攝政良經 公ノ室トナツテ光  
 明峯寺ノ関白道家公ヲ生リ道家公頼經  
 卿ヲ生ユフ頼經 卿ハ則頼朝ノ姉ノ孫ナ  
 ル故ニ頼朝 卿ノ後室ニ位 厄其ヨレニヨツテ  
 頼經 卿ヲ申レ下レテ養子トシ玉イテ頼  
 朝 卿ノ家督ヲ繼シ侍ル也其子三位中  
 將頼嗣 任之父頼經 隱謀ノ企アリレニ止  
 乏其後後嵯峨院第一ノ皇子中務卿宗尊  
 親王鎌倉ヘ下向シ玉テ任之其子惟康



親王任之父親王故又止之後深草院第二  
皇子文明親王ヲ申レ下テ任之其子守  
邦親王任之北條高時入道依不義一家滅  
亡少時此任ラ止レ此ヲ録倉將軍九代ト云  
一或問曰世俗流布シテ白頼朝親王天下取也  
北條家モ九代ナガラ天下取也ト云此説三  
ト云カ答曰世俗ノ説兩ナガラ非也頼朝親  
王家ヲ退治シ震際ヲヤスメ天下無為ニ歸  
ス忠功ニヨツテ平家一類ノ領知跡ナシ六  
十六箇國ノ惣追補使ト云モノヲ云リテ國々

守護ト云者ヲヤキシ計也天下ノ政務ニラ  
イテハ仙洞ヨリ出國六國司アリテ其國ヲ治  
也諸事仙洞ヘウカニ敬慮ニカセ侍ル是  
ヲ以天下取ト云ベキヤウナシ北條ハ遠江守時政  
頼朝親ノ舅ニシテ方モ大忠アリレユヘニ則頼  
朝親ノ代ニ至リテ家ヲ興シ其子武藏守義  
時實朝公ノ幼少之時ニアタツテ政務カラル  
ユニ威勢甚シクテ子孫代々威ヲ不失レテ  
將軍家ノ執權アリ其子左京大夫泰時其子  
相模守時氏其子武藏守經時其弟ニ左近

將監時頼明其子相模守貞時其子相模  
守高時二至ルニテ相續シテ執權タレトモ謙  
居テ不奢者位四品ニ不過シテ身ヲツクシ  
民ヲアウレシシカハ是モ九代ニテタモ千侍  
是ヲ鎌倉執權九代ト云頼朝御ケテ天下ヲ  
持玉ハスイワシヤ北條ヲヤ其後後醍醐天皇  
ノ御時兵部卿護良親王後醍醐第二ノ皇子大塔宮也暫  
任之又上野太守成良親王後醍醐天皇兼之第六皇子也  
王ヲ建武三年二月暫其号ヲ止ラレトモ其  
後尊氏卿任之ヨリ次第ニ兵權強シテ天下

ヲ掌ニシギリテ王道ヲウバイテ政務ハ武家  
ヨリ出テ天下悉ク武家ノ成敗ニテレリ其子  
寶篋院義詮公任之其子鹿苑院義満公  
任之義満公十歳ノ時父ニ後レ玉ヘテ細  
川武藏守頼之法名常久貞忠ヲツクシテ  
後見シ奉リテ尊氏卿ヨリコノカタ一統セザ  
ル天下ヲ泰平ニ治ス方民枕ヲ安クセリ頼  
之卒去ノ後義満公ヨリノ心出來テヲ  
モヘラクハ公家ニ攝家ト云フ棟梁アリ洲門  
三門跡アリ武家ニ棟梁ナレガ吏ノ治法

武家

武家

治法

王ニ一等階シテ攝家ニ准ビテ大納言ニテラ官  
仕子孫ノ官位大政大臣從一位ニ至リテ武  
家ノ棟梁タルベキ家ヲモリ至ヘト 天子  
ニ養ヒ侍レハ公方ト云号ヲ下セテ望ノゴトク  
勅許アリケレハ此時ヨリ公方ト云号始リ  
侍ル也征夷將軍ハ公方家ノ兼官ニナリ  
此時ヨリイヨク將軍ノ任一人ニ歸シテ外  
ニバゾムモノチカリキ  
一或問曰淳和學兩院別當并源氏長者  
仲院家ニ傳ル由職原抄ニ見ハタリカレニ公

方家代々兩院ノ別當源氏ノ長者ニナリ至フイ  
ト時ヨリ公方家ヘツリ侍也答曰吾子ノ問ノ  
ゴトク古ハ源家ニ高貴ノ人村上嵯峨ノ源氏也  
義滿公ノ御代ヨリ尊キ一清和源氏ニシテハ是  
以義滿公コレヲモ請テ兼帶シ侍ル其例ニ  
代々公方家何モ知其ニ侍ル也  
又問曰牛車共仗 公方家ニ帶シ玉ヲフ知何  
答曰牛車ノ夏ハ攝家ニモ勅許アリ是ニ准ビテ  
公方家ニモユルサレ玉ヲ兵仗ノ夏ハ武家兵馬  
ノ權ヲ專フトスルニ兵仗ヲ帶セザハ惡徒ヲ

近之古又不能是ヲ以テ請テ元サレ玉フ也義滿  
公ヲ公方ト稱シ武家ノ棟梁ニ成玉イテ公家者  
職ニ准ジテ武家ニモ故實ハ俗云ニ立礼正ニキヤウ  
ニトテ天下ノ侍ヲ十一位ニワカキ其位々ニ應  
ジテ其作法ヲモリ合テ後代ニテ其禮義ヲニダ  
サレトテ今川龙京太夫氏頼小笠原兵庫助長  
秀伊勢武藏守満忠此三人ニ仰セ付テテ故  
實書ヲアマレム名ニ謂當家引法集ニ議一  
統大夕紙一節ニ悉天下ニ口メテ武家ノ故實ノ  
規模トス武家ノ故實ハ此時ヨリ起リ書禮人法

モ公家ノ弘安禮節一部ニ准ジテ公方ノ十一位  
禮節一節アリ其外勅書ニ准ジテ御内書公方  
御下文御判公帖同御教書官領奉書奉行何レ  
モ公方ノ命ヲ奉リテ書スル也奉ル人々ニヨリテ  
其名カケリ其外遵行施行打渡ナド云書様  
アリ口傳万事ノ作法 天子ニ一等ヲ降シテ名  
付侍ル 公方ノ御所ヲ 據家門跡公方ノ御所殿中カリソ  
メノ居玉フ處ヲモ御殿御出ヲ御成御退ヲ還  
御上意上使上聞上覽ナド、公方家ニハ上ノ字  
ヲ付テ申ス也 公方ハ參ルヲ參勤御死去ヲ他界

其外 公方家ノ義之也 多シトイハレ  
畧之侍也

或問曰古ハ武家ノ棟梁ノ臣ヲバ執權執事ト  
ト云リ此時管領ト号シテ武衛細川畠山ヲ  
管領ト云フコノ管領ノ事如何答曰足利尾張  
守高經入道道朝ニ義詮御被仰曰高經天  
下ノ事ヲ管領セシメニタヘト御申マリヨリ管  
領ノ名ハ起リ慥ニ呼侍ルハ義滿公ノ御代  
ヨリ定リケリ義滿公ノ御代ニ細川頼之管領  
職ニ任ズ高經子斯波ノ右兵衛佐義將ヲ管

領ニ任ズ斯波ノ家代々右兵衛佐ニ任ズ兵衛ノ  
唐名ヲ武衛ト云ス斯波ノ家ヲ尊ニテ武衛ト  
稱ス畠山尾張守義深ノ畠山道子右衛門佐  
基國管領ニ任ズ此ニ家カワルム管領任ズ  
ルコヘニニ管領ト云フ  
又問四職ト云ハ如何答曰山名一色京極赤  
松此四家ノ人ト任ズルヨリテ四職ト云問御  
相伴衆ト如何答曰三職四職ノ大各守護  
ノ中ニテ其器量仁ヲ撰ニテ御相伴衆ニ居  
加ヘラル代々ニ至テ相伴ノ仁モカワレリ又問

公方ノ十一位ト云、如何答曰、御一族大名守護外  
 様評定御供衆申次番方國人奉行未男也  
 公方ノ御直臣ノ衆ハ此十一位ニモル、一上此位  
 二應<sup>フ</sup>ジテ武家ノ故實ヲ一立侍也勝定院義  
 持<sup>義滿</sup>子長徳院義量<sup>義持子</sup>普光院義教<sup>義持弟</sup>  
 慶雲院義勝<sup>義教子</sup>慈照院義政<sup>義勝弟</sup>相  
 續<sup>シ</sup>ニ任<sup>ス</sup>之此義政公御代ニ山名宗全細川  
 勝元<sup>宗全</sup>此兩人京都ニシテ相戦<sup>リ</sup>既三二十  
 二年王城寺社諸公家ノ家々悉ク兵火ノ災ニカ  
 レリユレヲ應仁ノ乱ト云フ本朝ノ記録多クハ此時

燒失<sup>シ</sup>侍ル也公方威勢衰<sup>テ</sup>參勤スル諸候モナ  
 ク武命ヲ用ル國人モ無クシテ我々ニ有<sup>テ</sup>大ハ小ヲ  
 トリ強ハ弱ヲ侵<sup>シ</sup>テ日本悉ク戦<sup>ハ</sup>キマタト成<sup>リ</sup>  
 リ義政公ハ隱居ノ地ヲ東山ニ占<sup>ム</sup>テ大智院義  
 楳<sup>義政</sup>家督ノ名計<sup>テ</sup>其職ニ居侍ル<sup>ル</sup>カテリス  
 常徳院義尚<sup>義政子</sup>早世惠林院義植<sup>義視子</sup>義政  
 法住院義澄<sup>義政養子</sup>相續<sup>シ</sup>テ任<sup>ズ</sup>征夷將軍侍  
 レ居公方ノ名バカリニテ世ヲ治ル<sup>ル</sup>不能<sup>ク</sup>刺義植  
 義澄合戦ヲ始メ唯雄ヲ争<sup>ヒ</sup>イレバイヨク  
 公方家ナキガコトクニシテ天子モ公方モ安座ノ

天子モ公方モ安座ノ

思<sup>イ</sup>住<sup>シ</sup>レ<sup>ト</sup>五<sup>ノ</sup>ハ<sup>ス</sup>イ<sup>ク</sup>ワ<sup>シ</sup>ヤ<sup>ク</sup>其<sup>ノ</sup>下<sup>ニ</sup>モ<sup>ト</sup>京<sup>ノ</sup>中<sup>ノ</sup>人<sup>ヲ</sup>マ<sup>シ</sup>万  
松<sup>ノ</sup>院<sup>ニ</sup>義<sup>晴</sup>晴<sup>義植子</sup> 義<sup>澄</sup>養<sup>子</sup> 任<sup>シ</sup>之<sup>ニ</sup>光<sup>源</sup>院<sup>ニ</sup>義<sup>輝</sup>輝<sup>義晴子</sup>  
在<sup>レ</sup>職<sup>十</sup>有<sup>餘</sup>年<sup>ニ</sup>シ<sup>テ</sup>三<sup>好</sup>義<sup>繼</sup>松<sup>永</sup>久<sup>通</sup>等<sup>ヲ</sup>  
殺<sup>シ</sup>奉<sup>リ</sup>其<sup>後</sup>織<sup>田</sup>信<sup>長</sup>公<sup>靈</sup>陽<sup>院</sup>義<sup>昭</sup>昭<sup>ヲ</sup>ノ弟<sup>義</sup>輝<sup>輝</sup>  
室<sup>町</sup>殿<sup>ト</sup>モ<sup>リ</sup>立<sup>テ</sup>征<sup>夷</sup>將<sup>軍</sup>ニ<sup>任</sup>シ<sup>テ</sup>侍<sup>リ</sup>力<sup>不</sup>義<sup>不</sup>  
ニ<sup>シ</sup>レ<sup>テ</sup>ス<sup>ニ</sup>ヨ<sup>ツ</sup>テ<sup>テ</sup>備<sup>後</sup>ノ<sup>柄</sup>ヘ<sup>ウ</sup>ツ<sup>レ</sup>侍<sup>ル</sup>義<sup>昭</sup>昭<sup>公</sup>モ  
利<sup>輝</sup>輝<sup>元</sup>ニ<sup>扶</sup>持<sup>セ</sup>ラ<sup>レ</sup>居<sup>王</sup>モ<sup>シ</sup>ガ<sup>大</sup>閣<sup>秀</sup>吉<sup>公</sup>ノ  
御<sup>代</sup>ニ<sup>御</sup>相<sup>伴</sup>衆<sup>ノ</sup>列<sup>ニ</sup>准<sup>メ</sup>カ<sup>ス</sup>カ<sup>ナ</sup>ル<sup>躰</sup>ニ<sup>テ</sup>シ<sup>テ</sup>シ<sup>テ</sup>  
リ<sup>王</sup>フ<sup>コ</sup>ノ<sup>コ</sup>ロ<sup>ノ</sup>三<sup>井</sup>寺<sup>ノ</sup>圓<sup>滿</sup>院<sup>實</sup>相<sup>院</sup>ノ<sup>兩</sup>御<sup>門</sup>  
門<sup>主</sup>ハ<sup>義</sup>昭<sup>ノ</sup>御<sup>子</sup>也<sup>已</sup>上<sup>尊</sup>氏<sup>將</sup>軍<sup>ノ</sup>子

孫<sup>義</sup>昭<sup>ニ</sup>至<sup>ル</sup>ニ<sup>テ</sup>十<sup>五</sup>代<sup>ニ</sup>シ<sup>テ</sup>断<sup>絶</sup>ス<sup>是</sup>ヲ  
先<sup>代</sup>公<sup>方</sup>十<sup>五</sup>代<sup>ト</sup>云<sup>フ</sup>又<sup>ハ</sup>京<sup>都</sup>將<sup>軍</sup>氏<sup>云</sup>  
一<sup>忽</sup>見<sup>院</sup>信<sup>長</sup>公<sup>王</sup>時<sup>右</sup>大臣<sup>天下</sup>ノ<sup>兵</sup>權<sup>ヲ</sup>取<sup>テ</sup>四<sup>海</sup>  
ノ<sup>逆</sup>乱<sup>ヲ</sup>鎮<sup>メ</sup>王<sup>フ</sup>天<sup>下</sup>ヲ<sup>六</sup>七<sup>分</sup>キ<sup>リ</sup>レ<sup>タ</sup>ガ<sup>ハ</sup>  
懇<sup>ク</sup>泰<sup>平</sup>ナ<sup>ラ</sup>レ<sup>シ</sup>ト<sup>シ</sup>玉<sup>フ</sup>時<sup>惟</sup>任<sup>日向</sup>守<sup>光</sup>  
秀<sup>カ</sup>爲<sup>ニ</sup>弒<sup>セ</sup>ラ<sup>レ</sup>玉<sup>フ</sup>參<sup>議</sup>信<sup>忠</sup>卿<sup>信</sup>長<sup>同</sup>  
シ<sup>ク</sup>自<sup>害</sup>シ<sup>玉</sup>フ<sup>信</sup>長<sup>公</sup>ヲ<sup>公</sup>方<sup>十</sup>号<sup>ス</sup>ル<sup>ノ</sup>暇<sup>ナ</sup>レ<sup>シ</sup>  
或<sup>問</sup>云<sup>信</sup>長<sup>公</sup>天<sup>下</sup>取<sup>ト</sup>申<sup>事</sup>理<sup>ニ</sup>カ<sup>ナ</sup>ハ<sup>ニ</sup>ヤ  
イ<sup>ナ</sup>ヤ<sup>答</sup>曰<sup>天</sup>下<sup>取</sup>ト<sup>申</sup>事<sup>甚</sup>理<sup>ニ</sup>カ<sup>ナ</sup>ハ<sup>リ</sup>禁<sup>止</sup>  
裡<sup>再</sup>負<sup>セ</sup>レ<sup>シ</sup>又<sup>門</sup>跡<sup>并</sup>諸<sup>公</sup>家<sup>中</sup>ニ<sup>領</sup>知<sup>ヲ</sup>與<sup>フ</sup>

へ天下ノ政務ヲ聞玉へハ天下取ノ号何ノサリ  
ル所カアラス

又問明智光秀信長公父子ヲ弑シ奉リテ

参内セシムト云云レカラス是モ天下取ト申サヤ

否答曰光秀ハ丹波一國江州坂本計ヲ領

知レテ六月二日ニ信長公御父子ヲ殺シ奉同

月十三日ニ討之ケル暫モ天下ノ政務ヲキ

カス何ヲ以カ天下取トイワシヤ

一太閤秀吉公ハ卑賤ヨリヨリテ天下ノ兵乱  
ヲシツメ四海泰平ニ安全ノ世トシ玉フ秀吉公

初ハ平氏ト称ス後改豊臣氏公方ノ望在ス故ニ靈

陽院義昭ノ養子ニナリテ公方ノ跡ヲツグント

テ強テ舟ニ義昭ニ玉へ尼義昭愚昧ニシテ

終ニ養子ニシ侍ルナレ時ニ菊亭右大臣暗

秀公被申ケルハ公方ヨリ貴キハ関白也関

白ニナリ玉へ下諫メ侍レハ秀吉公美引レ玉イ

テ頃ニ関白職ニ任レ公武ノ政務ヲキ玉ニ

天子ノ御領ヲ増諸門跡諸公家衆へ

新知ヲ與諸侍ニ官位ヲスメ天下ヲ掌中  
ニ握王ヲ中納言秀方次秀吉ノ弟ヲ養子ニシテ



関白職ヲムツリ其身大関ト号シ日本ノ義ハ  
不及申異朝ニテ追討使ヲ遣慶長三戌年八  
月十八日於伏見城生年六十二歳ニテ他界シ王  
ノ関白職タルニヨツテ公方トモ申シ奉ラスミレ  
テ將軍ニ任シ玉フ事モナカリキ翌年四月  
十八日勅賜 秀吉ノ廟豊國大明神謚シテ  
神ト祝イ侍リシ也

職原抄支流卷之四終

職原抄支流卷之五

門跡并諸寺社

一と門跡ト申事ハ御門跡ト云コト也皇子カ  
ガリヲオロシ玉ヒテ親王ノ宣旨ヲ蒙リ釋門ニ  
入玉ヘハ法親王ト申ス也コレモ四品ヨリ昇玉フタ  
トハ二品法親王尊圓ナド、申スゴトク也法親  
王ノ居玉フ寺ヲバ宮門跡ト申ス又攝家ノ御  
子門跡ノ寺ニイリ玉ヘハ攝家門跡ト申ス又ハ  
公方門跡清花門跡ト申シ侍ル也古ハ仁和  
寺御室寛平法皇ノ宇多天皇御寺ト故ニ僧勢ト

號レテ必一品法親王ニ侍ル也今門跡ト申

ス御寺ハ

一 仁和寺 佛室云 官門跡 大覺寺 嵯峨 有官 隨心院 小野有 攝家

勸修寺 山科有 清花 三寶院 醍醐有 當山修驗者 頭 也 攝家

右五箇寺ハ真言宗ニテ東寺ノ門跡也

一 圓融院 小原有極 井殿上云宮 青蓮院 粟田口 有宮 妙法院 大佛 有宮

曼珠院 竹内ニ有 是 故竹内殿上居 毘沙門堂 東叡山 有清花

右五箇寺ハ天台宗也此中カニテ圓融院青蓮院

妙法院ハ山門ノ座主ヲ兼テ故ニ叡山ノ三門跡ト云フ

一 聖護院 本山修驗者 兼テ有宮 圓補院 三井寺 有宮 實相院 同 有宮

右二箇寺ハ三井寺ノ三門跡ニテ天台宗也二井寺長 史ヲカリクニ持テ

一 乘院 公方 大乘院 攝家

右二箇寺ハ南都ノ兩門ト云法相宗ヲ兼テ

一 智惠院 淨土宗東 山ニアリ 有宮

一本願寺 東西ニテ寺アリ 清花ニ在ス大僧正至 真正寺 西本願寺下ニ 正僧正迄ニ至ル

右宮門跡ハ四品ヨリ叙シ至イテ僧正ニテ仕イ至

テ攝家清花ノ門跡ハ大僧正ニ至リテ法印ニテ仕

至テ也 公方ノ御礼モカワリ有之也院家寺ト

云ハ門跡ノ隱居所ト云心也又トハ若王子ハ聖護

院ノ院家ノゴトキ也

一或問門跡ノ義ハ聞其説其外ニ聖道門ノ山々  
寺々多ク之其官位ノ相當又ハ身進ノ次第分  
明ニ人王ハ答曰今時ノ僧正ハ大取權僧正也天  
台宗ニ取分多ク其中カニテモ尊勝院江州多賀  
若王子ナドハ大僧正マデニ至レル也

八幡愛宕鞍馬ナドハ法印マデニ至レル也

高野山金剛峯モ法印マデニ至レル也高野山ノ頭ヲ換  
校ト云前ノ換校ヲ前官ト云真言宗ニテモ弘法流  
義ノ古義ト云東寺高野トノ類也覺鑿流義ヲ

新義ト云紀州ノ根來寺ハ新義ノ本寺タリ然レ  
根來寺ハ大閻秀吉公ノ御代ニ滅亡セシニヨリ京  
ノ智積院并和州長谷ノ小池坊ハ新義ノ兩本  
寺也各權僧正迄ニ至ル也其外ハ大取ハ法印  
ヲ極官トシ侍ル也

又問修驗俗日セシキノ相當如何答曰本山當  
山共ニ法印マデニ至也コトニ法印モ勅任ニアラズ  
シテ多クハ山尼ニテノ私官也其外田舎ニテ呼  
野ノ真言天台ノ法印ハ皆以私官也勅任ノ法  
印ニ同座ニモ入ガタレ但人ニヨリ寺ニモヨリテ又ツト

ハキヲ勿論也

又問八幡ニ善法寺ト云アリ此位如何公曰善法寺今ハニツニ分レテ善法寺新善法寺田中善法寺ト云何レモ法印ニテニ至ル也妻帯也是故ニ古ハ善法寺通清法印ノ女ハ鹿苑院義滿ノ御母也外戚ノ戚ヲカリテ其右リハ公方家工御相伴ナドニイリタル事有今ハ只世ノツツノ法印也

一 禪宗ノ事 尊氏卿夢窓國師ヲ崇敬アリヨリ以來孫々ノ公方ノ宗旨ニテコトニ法ノ師タルヨツテ

公儀ノ崇敬餘宗ニテハタリ當時ハ先代ノゴトク法ニハ用ヒカタシモタク下ニコトハリ侍ル

一 南禪寺 開山 曹洞五山ノ上ノ位トテ五山ノ上也ト上ニ當

御代ヨリ金地院ニ僧録ヲ持侍ルニ取分威勢

有是故南禪寺ノ長老ハ五山ノ長老ヨリ級フヘキ

段勿論也

一 天龍寺 開山ハ夢窓國師 後醍醐天皇ノ時 相國寺 同 建仁寺 開山ハ宋西

東福寺 開山ハ 万壽寺 開山ハ 寶覺

右是ヲ五山ト云テ 公方家御支配也五山ノ私官ノ次第ハ藏主首座單寮西堂トヤカ

是ニテハ私官也東堂ヲ長老凡云和尚トモ云  
 勅任也和尚ニ至リ又ハ紫衣ヲ著スル也五山  
 ノ出世ハ南禪寺ノ僧録ニコトハリソヨリ 公方  
 へ申上サテ 公方ヨリ舉シ至ヒテ出世ヲトク  
 ルニ出世スルヲ成ガタレ是故ニ當時五山ノ中  
 ニ出世ノ紫衣十人ニ充ガル也

一十刹ノ事五山ノ下ニ十刹ト云寺有等持寺臨

川寺ノ類也此住持ハ多ク西堂單察也

一問云大德寺妙心寺ハ如何答曰大德寺

後醍醐 天皇時 妙心寺 開山關山 花園院時 右ノ二箇寺ハ

開山 大燈

天子ノ御願所ニハ公方家ノ御支配ニラス此  
 私官ノ次第ハ藏主首座單察トアガリテ西  
 堂トレ是ニテ私官也單察ヲ俗呼テ黒衣  
 ノ長老ト云出世ノ義ハ齒徳ノ鴈ツカシガハ  
 京ノ所司代へ申レ出世シトゲ侍ルナリ勅任  
 也出世ニモ無任歴任ノカワリ侍任出世サヘ  
 一タレハ何モ紫衣ヲ著スル也此兩寺勅願寺  
 タル故ニ出世ナリヤスレ是故妙心寺ハ今時ノ  
 長老二百人ニ及ベリ大德寺ニモ十人ニアレリ  
 又六龍安寺ト云寺ナリ妙心寺ニ准ジテ出世ヲ

トクル也

曹洞宗如何答曰洞家ノ本寺ハ惣持寺永平寺

トテ北國ニ有此惣本寺ヨリ舉狀ヲ取テ本下

道正取次テ職事へ申レ出世ヲ遂侍ル也惣本

寺ハ紫衣也國ヲ分テ下本寺アリ此ノ寺々住

持ハ紫衣ヲ著セラル也其外ノ寺々ハ猶以此紫

衣ヲ著スルヲ不能也

浄土宗ハ如何答曰浄土宗ハ鎮西西山ノ兩

流也鎮西ノ本寺ハ智恩院光明寺俗黒智恩寺

寺俗百カ浄花院是ヲ四箇本寺ト云西山流義

本寺ハ光明寺西山栗禪林寺東山有俗

ハ紫衣ヲ著スル也其外ニモ紫衣ノ寺有鎮西流義

三右ノ外ニ紫衣ノ寺猶以多浄土宗ノ紫衣寺ヨ

リテ僧ヨラス其外ノ寺ハ長老ハ亦箇年ノ前

ニヨリテ正上人ナリ北箇年未滿ニ權上人

九西出六權正ノ差別ナレ本寺ヨリ時ノ職事

衆へ申入ルレハ長橋ノ局内奏有リテ職事

衆ヨリ倫旨出ル也是ヲ出世ト云也参内

ス夏ナレ色衣ヲ許サル、計也

一真宗ハイカン答曰真宗ノ本寺ハ門跡ナレ前

曹洞宗如何答曰洞家ノ本寺ハ惣持寺永平寺

トクル也

曹洞宗如何答曰洞家ノ本寺ハ惣持寺永平寺

トテ北國ニ有此惣本寺ヨリ舉狀ヲ取テ本下

道正取次テ職事へ申レ出世ヲ遂侍ル也惣本

寺ハ紫衣也國ヲ分テ下本寺アリ此ノ寺々住

持ハ紫衣ヲ著セラル也其外ノ寺々ハ猶以此紫

衣ヲ著スルヲ不能也

浄土宗ハ如何答曰浄土宗ハ鎮西西山ノ兩

流也鎮西ノ本寺ハ智恩院光明寺俗黒智恩寺

寺俗百カ浄花院是ヲ四箇本寺ト云西山流義

本寺ハ光明寺西山栗禪林寺東山有俗

ハ紫衣ヲ著スル也其外ニモ紫衣ノ寺有鎮西流義

三右ノ外ニ紫衣ノ寺猶以多浄土宗ノ紫衣寺ヨ

リテ僧ヨラス其外ノ寺ハ長老ハ亦箇年ノ前

ニヨリテ正上人ナリ北箇年未滿ニ權上人

九西出六權正ノ差別ナレ本寺ヨリ時ノ職事

衆へ申入ルレハ長橋ノ局内奏有リテ職事

衆ヨリ倫旨出ル也是ヲ出世ト云也参内

ス夏ナレ色衣ヲ許サル、計也

一真宗ハイカン答曰真宗ノ本寺ハ門跡ナレ前

贈原村 卷之五 世

ハニ詔ス其下ニ院家一家内陣緇僧如袈裟衣袈裟緇僧也俗也此  
ト云更アレ凡悉私官ニシテ一宗ノ中ニシテ位  
也コレモ法橋法印ニテニ至ルナリ勅任成故私  
官ノ法印ナリトノ列ニ非ス其人ニヨリ其寺々ニヨリ可敬也

一 蓮宗俗ニ法花宗ト云イカン答曰日蓮宗  
本寺久遠寺甲別其外京ニ有ル所ノ本  
寺ノ住ハ色表ヲ審ス法橋法眼法印ニ至ル  
又寺ヨリ俗姓ニヨリテ權僧正ニテニ至ル有其  
下寺々ハ皆私官也由衣ヲ着スルヲハ何レモ上

入上野ス也

一 遊行ハ如何答曰本寺ハ藤澤ノ清淨光寺也  
代々他阿上人ト云京ニモ敷箇寺時衆ノ寺  
アレ凡無官無位ナレバ評ズルニタラズ其人ノ心持  
次第ニタツトムベシ

一 律宗ハイカシ答曰律宗ノ寺ハ槇尾柵尾音戒律ヲ守ニレテ人ニ不交無官無位ナレ不及  
評雖然道德ヲタツトシテ名ヲ守限勿論ナリ  
惣シテ禪宗淨土宗一向宗日蓮宗古ハ比前  
以官位ニスハ更ナレ出世ナド云ハ近代ノ

夏也倫旨ニハ公トイモ官位ノ事ハ書載ラレ  
ス禪宗ハ和尚ト侍レハ法印ニ可准淨土宗ハ  
上人ト侍レハ法橋ニ可准是等ノ類ヲ押テ位  
ノ相當ト可知也

一國師ハイカニ答曰ク天子ニ佛法ノ師ニナレ  
僧ニハ國師号ヲヲクラル國師ノ号ハ多  
クハ謚ニテ存生ノ國師ハ邂逅ノ例也

一大師ハイカニ答曰ク大師号ハ何レモ謚也天台真  
言ニ限也最澄ヲ傳教大師圓仁ヲ慈覺大  
師空海ヲ弘法大師圓珍ヲ智證大師迹

代ノ南光坊大僧正ヲ慈眼大師ト謚ス以上  
五大師バカリ也又問曰國師ヲバ大政大臣ニ准

ズト云フイカニ答曰ク是亦世俗ノ説テラシ佛  
法ノ御師範ニテ侍ルホドニ相國ニ准レテ  
尊ニ至フ夏モ可有カ法ヲ敬フ時ハ其人ノ位

ニヨラサルモノナレバイカホドモウラマイ玉ヘキ一也  
然レハ國師ヲ相國ニ准ズル證文ヲ其終ニ見  
ザル上ハ分明ニユタヘガタキモノカ

一又問出世ノ出家ヲバ人ゴトニ長老ト云フ長  
老ハ官カ位カ答曰ク長老ハ官ニテモ位ニテモ



僧位 卷之五 十一

ナレ長ハ徳ノ長スルノ義称老八年ノ老タルノ義  
称也齒徳ノタカキ人ヲリキヨリ尊テ呼ル所  
ノ号也禪宗ハ和尚浄土宗ハ上人ト可云也自  
身ニ長老ト云ハ大キナルアヤニリナリ

一問僧位ヲ俗位ニ准スル一代々ハ差別有  
又ハ僧ノ官位ノ昇進ノ次第イカニ答目僧  
官位昇進ノ次第古ハ

一無位僧ハ當ルニ入位僧ハ當ルニ住位僧ハ當ルニ

滿位僧ハ當ルニ法師位僧ハ當ルニ大法師位僧當

右僧位ノ五階桓武天皇延暦十七年九月九

日被定也

一傳燈入位ハ准傳燈住位准傳燈滿位 修行位

傳燈法師位從職師 傳燈大法師位威儀師

法橋上人律師 法眼和尚位僧都

一法印大和尚位僧正

右清和天皇貞觀六年二月廿六日被定

一法橋ハ准五位諸大夫法眼 准持鉢法印准少將

權僧正准參議 正僧正准中納言 大僧正准大納言

右後醍醐天皇建武年中定之此相當ツ今ニ

至ニテ專用ヒ侍也僧正ニ仕ズル公卿ト同等也

威儀師

律師

僧都

一僧ノ官ト云々古ハ從儀師ヨリ威儀師ニホリ律師ト  
アガリケレハ近代ハ律師正權僧都大正權少僧正大正權大正任  
ズル也是ヲ僧ノ官ト云儀都正ハ至レハ寺ニヨリ人  
ニヨラザレバ僧正ニ至ルカタシ權僧正正ニハ至レハ  
大僧正ニ至ルハナリカタシ例ノアル寺ハガリ任ズル也  
僧ノ官ニ任スル支ハ本式ハ天台正真言正ハガリ也官ニ  
ハ職掌有真言天台正ラテハ職掌ヲツトムル  
ナリガクキユニ右ノ兩宗ノ外ハ官ニ不在正テ多ク  
位ニホル也醫者其外ノ剃髮ノ者モ悉ク僧位  
ニ叙スル也醫者ハ法印ニナレハカナラスハ省ノ親ヲカ

スル也惣シテ僧俗共ニ位ニホリヤスク官ニハ任ジ  
難キモノナリ

一僧ノ位ト云ハ傳燈法師ヨリ傳燈大法師ニホリ  
法橋ニ叙シケレハ近代ハ法橋法眼法印ト叙スル  
也是ヲ僧ノ位ト云法印ノ位ニテハ至正レハ僧正  
官ニ任ズルハナリガタキナリ也是故ニ先例ナキ  
寺ニ多クハ權大僧都ニテナリ僧正ニ至ルハナリ  
ガタキナリ也僧位ニ叙スルハ二十歳ニテ法橋ニナリ  
十箇年アツテ四十歳ニテ法眼ニナリ十箇年ア  
ツテ五十歳ニテ法印ニナリ十箇年ツクニシテノボル法

也是ヲ任十年ト云醫者ハ法印ニテ至ル也但  
僧臣ハ法眼ニテトリ但忠功ニヨツテ勅許アルハ  
各別ノ事也坊官モ十箇年ノ任也僧正官  
ニ至寺々ハ八箇年ツノ任モアリ二十歳ヨ  
リ内ニテ法橋ニナリヌル人ハ五十未滿ニテ法  
印ニナルトモ侍ヘシ

官 律師ハ 位 法橋相當也

官 僧都ハ 位 法眼相當也

官 僧正ハ 位 法印相當也

是以テ僧ノ官位ノ變ハ分別可有又ハ詳ニ復

口變モアルヘシ今アラワス所ハ常世用ル所ノ僧官  
位昇進ノ次第又ハ俗位ニ准ズルノ法也

一僧ノ官位ハ得聞ヲ又寺社ハイカン谷曰吉田  
兼連五位ノ侍從也吉田家ハ二位ニテ至ル例有

神祇道管領長上ト云事ハ吉田相續シテ帶之也  
神祇伯ハ白河稚高王大副ハ千倉子合ハ少副ハ

伊勢ノ祭主依ハ吉田ノ兼連兼之賀茂ノ神  
主松下ハ三位迄ノ例有北野松梅院ハ沙

門ナレハ不及評住告社務ハ古ハ三位ニテモ昇シ  
例アリトイハ近代ハ地下也其外ノ諸社ノ社家位

卷之五

二叙ス六五位以下ニシテ久ク無位也又問田舎  
ノ社人吉田ニテ任官シ侍ト補任アリテ稱スコレモ  
位ヒアリヤ答旨吉田ニテ官位ヲ許スベキ法侍ラス  
僧俗共ニ官位ト云モノハ 天子ヨリ出者也今  
時分ノ社人ハ吉田ヘ行テ風折烏帽子ニ狩衣  
ヲ着スベキ由ヲ許サシ侍ル是ヲ裁許狀ト云風  
折狩衣ヲ許サルバ名ヲ改テ官名ヲ付侍ル在  
悉無官無位也尊ニ足ズ但其社又ハ其火ニモ  
寄ベキカタトハ合時ノ真言天台ノ沙門禁中ニ  
ハ足ヲモ不入ノ觀山高野ニテ法印ニ成官位ノ綸

旨取タリト詢<sup>ヒ</sup>迥<sup>ニ</sup>ヒト<sup>シ</sup>僧俗<sup>ハ</sup>ニ官位ト云ヘルハ  
禁中ニテ上<sup>ニ</sup>郷ノ奉行ニテ職<sup>ヲ</sup>更<sup>テ</sup>局<sup>ノ</sup>務<sup>ヲ</sup>ヨリ出ル  
所<sup>ノ</sup>宜<sup>キ</sup>旨<sup>ト</sup>公宣<sup>ナ</sup>クニテ本寺本社ヘ参リテ官  
位ヲスムトイヘルハ愚昧ノ至リ誠ニ耻カレキコト  
ラスヤ或聞日<sup>ハ</sup>勅<sup>シ</sup>官<sup>ヲ</sup>ヲ尊<sup>ニ</sup>テ私官<sup>ヲ</sup>ヲ賤<sup>ス</sup>ルハコト  
トニ職者<sup>モ</sup>域也<sup>ナ</sup>予<sup>モ</sup>ソノ病<sup>ヲ</sup>マスカレザルト云テ咲  
テ去レリ

職原抄 卷之五 九七

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

宮城殿門

拾芥鋏日或書云延曆十二年正月

甲午遣使於山等國葛野宇多村地為遷都也

始造山等新宮同年六月庚午令諸國造新宮

諸門尾張美濃二國造殷富門伊福氏也越前

國造美福門土生氏也若狹越中二國造安嘉

門海大耳氏也丹波國造偉敷門猪使氏也但

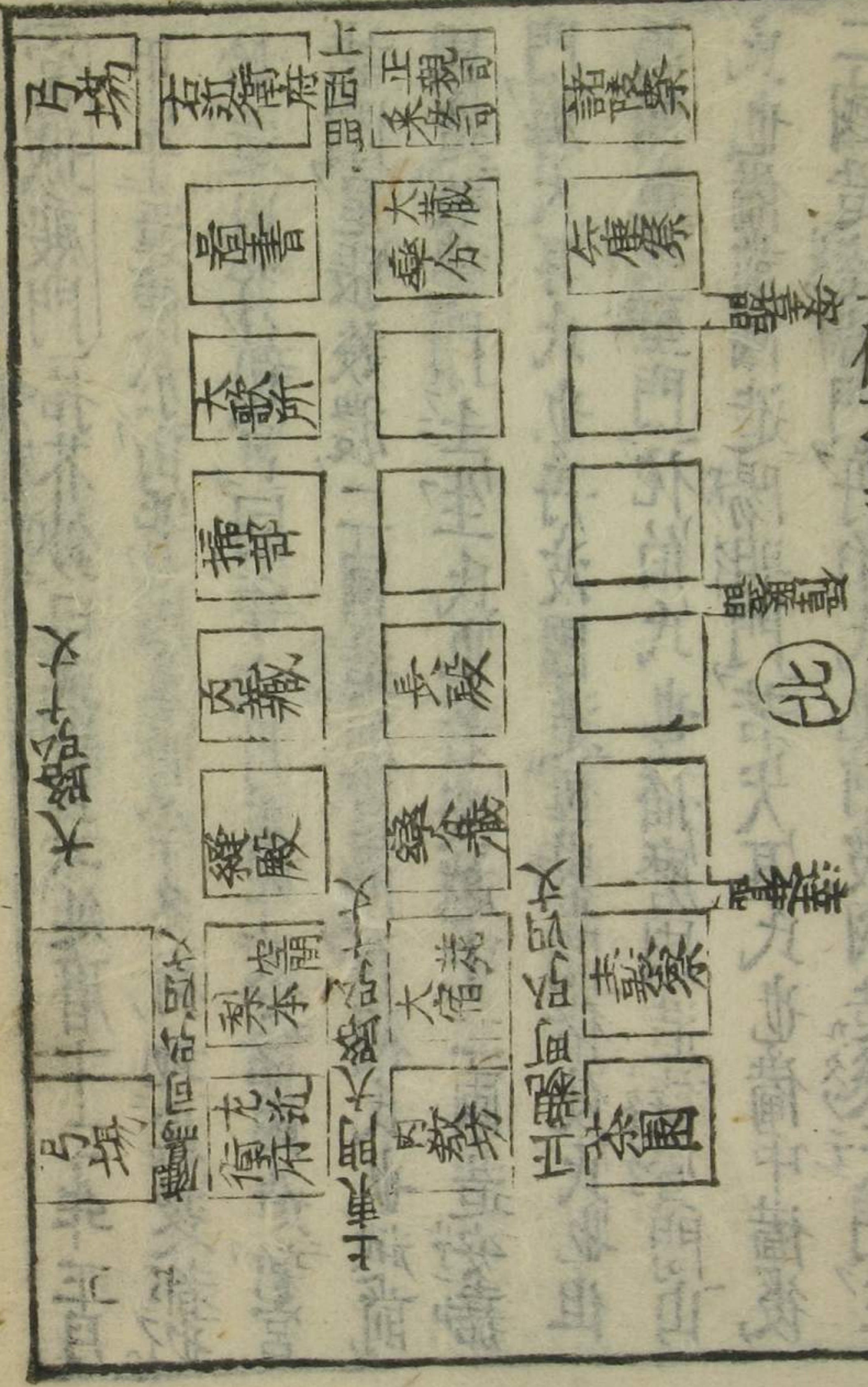
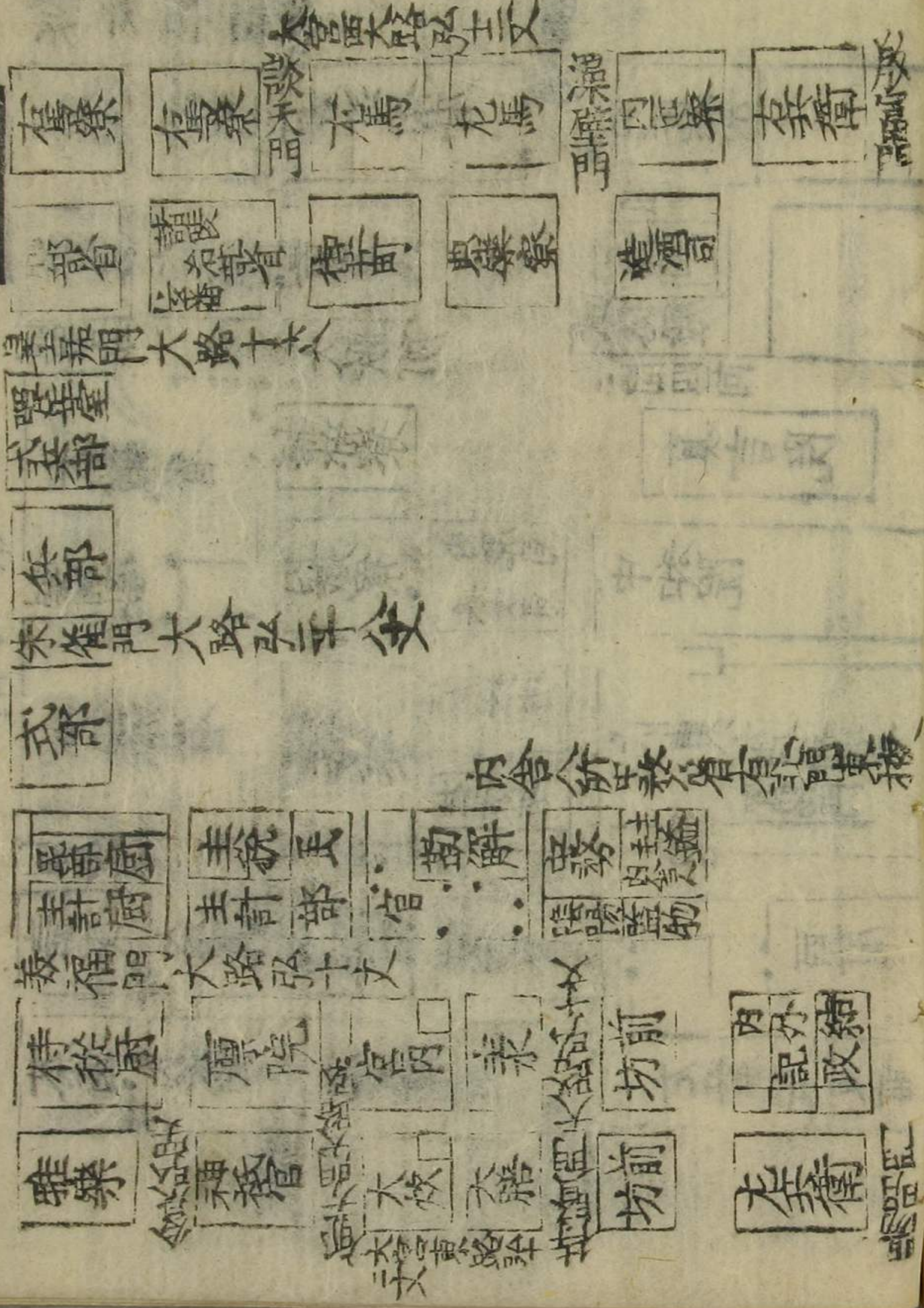
馬國造藥壁門花伯氏也播磨國造符賢門山

氏也備前國造陽明門若大耳氏也備中備後

二國造達智門丹治氏也阿波國造談大門王

手氏也伊與國造郁芳門達部氏也同十二年

鐵原以



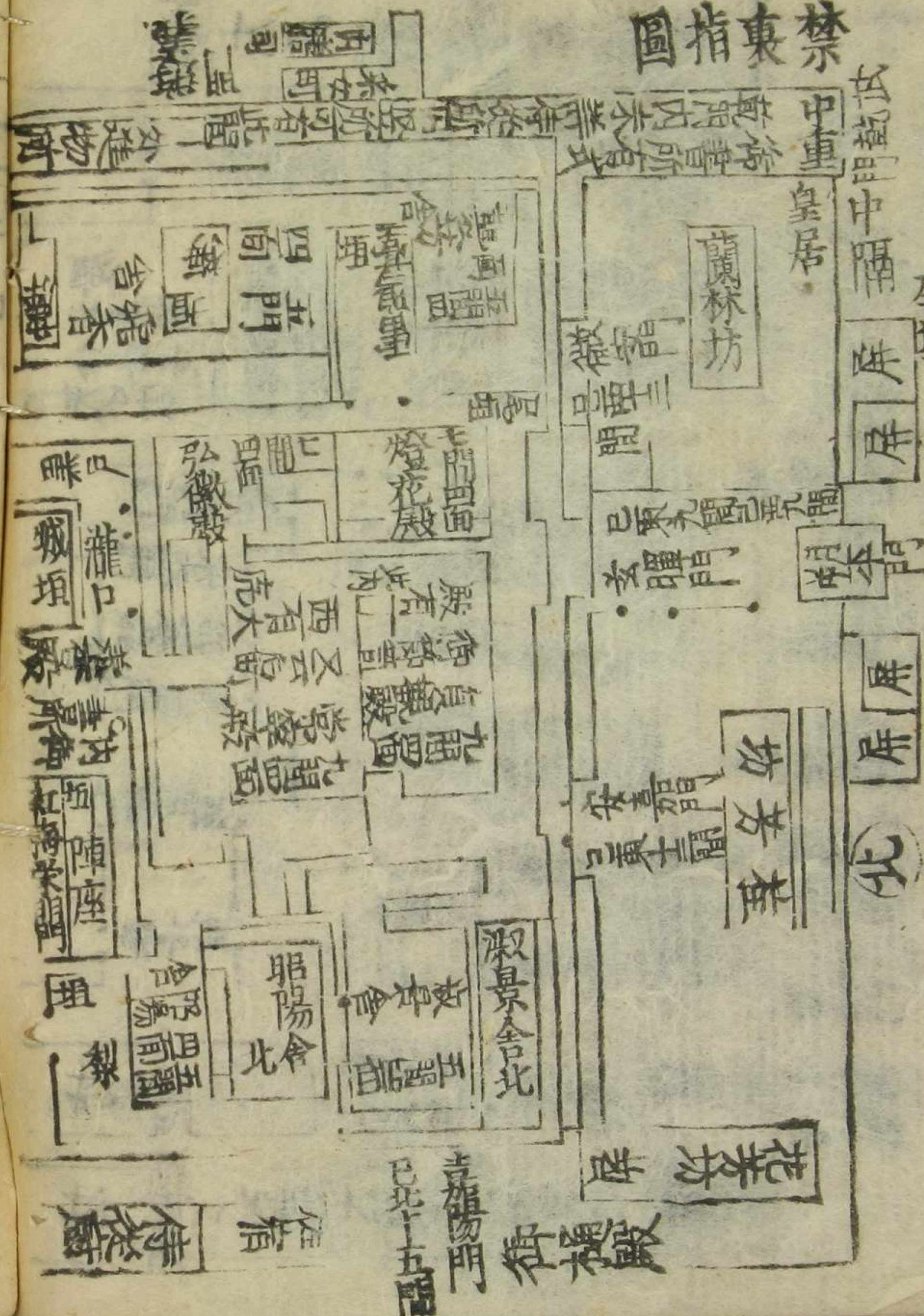
宮城指圖  
一條大路弘十丈二尺

省界

卷之五



禁東指圖

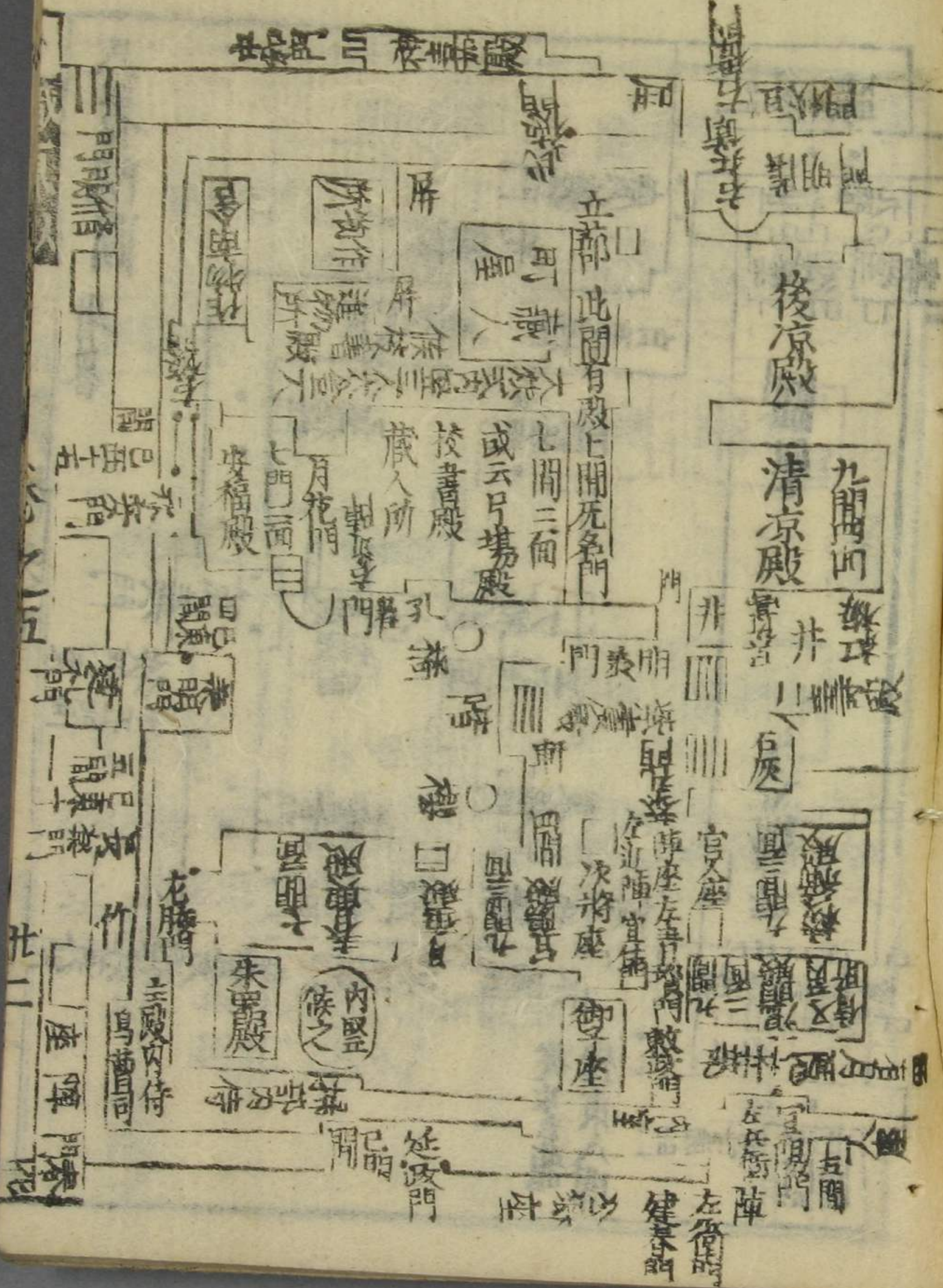


中重  
皇居  
蘭林坊  
芳苑  
北

西門  
東門  
南門  
北門

西門  
東門  
南門  
北門

禁東指圖



西門  
東門  
南門  
北門

西門  
東門  
南門  
北門

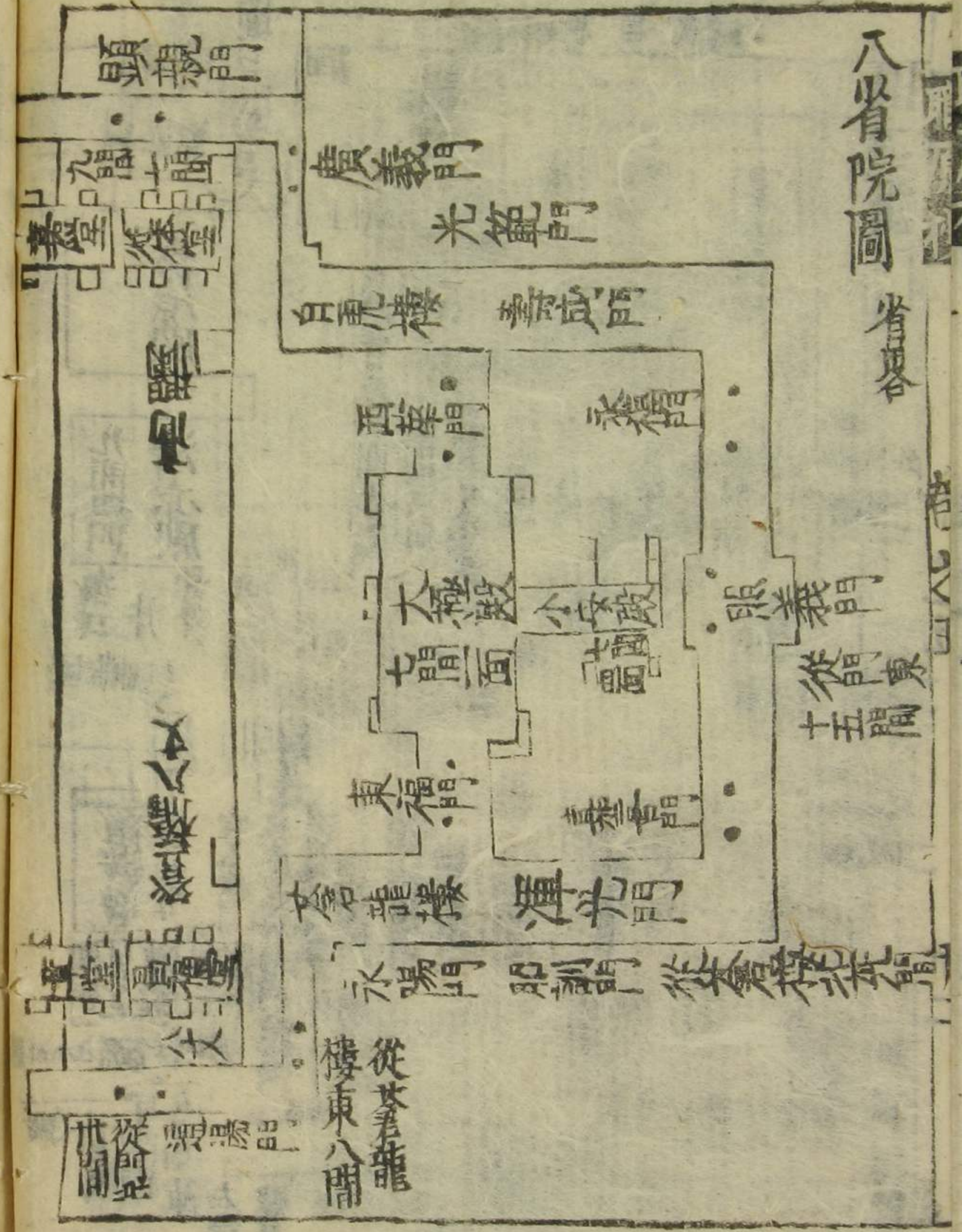
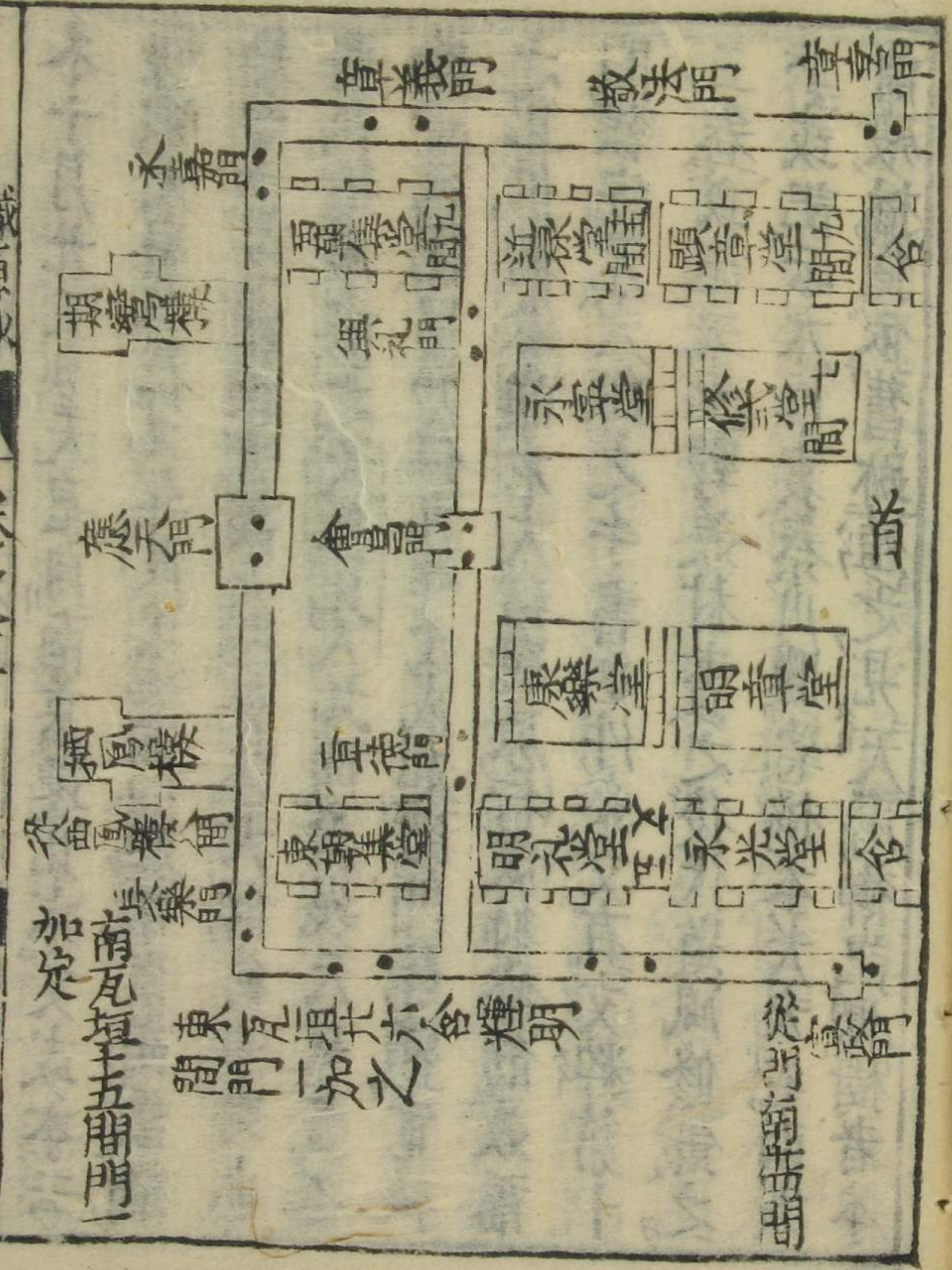
西門  
東門  
南門  
北門

西門  
東門  
南門  
北門

西門  
東門  
南門  
北門



欽定四庫全書



八省院圖 省各

欽定四庫全書

冬十月廿二日天皇自南京遷北京文或本云  
嵯峨天皇弘仁九年戊戌諸門懸額東面額橘  
逸勢書之南面并談天門弘法大師御手跡也  
西面道風書之天德比人北面嵯峨天皇書之  
給云或記曰弘仁九年戊戌起殿門等額寬弘  
之比依勅參議右大辨藤原行成卿修飭美福  
門額字元大師之手書也件祭文有文粹第十  
三卷或記云元野美村書之後代道風修飭之  
云或記云大內裏奈川勝宅橘本大夫宅南殿  
前殿橘樹依舊跡殖之見天曆御記櫻樹者本

是梅也桓武天皇遷都之日所被殖也而及  
和年中枯失仍仁明天皇被改殖樹也橘木者  
橘本末夫之時樹也枝條不攻及天德之末  
見康和二年御記○愚按禁外指圖陽明門日  
兵衛御門待賢門日中御門都方門日大炊御  
門日上三門東面也美福門日生御門朱雀門日朱雀  
御門日皇嘉門日雅樂寮日上三門南面也談天  
門日馬寮御門日藻壁門日中御門日殿日  
三門西面也安嘉門日兵庫寮御門日厚殿門日  
不開御門日花山院御出家時自此門出給故

或本云  
卷之五  
十一

名之達智門已上三門北面也。上東門曰土御門  
在陽明門北。上西門曰西土御門在殷富門北。豐  
樂門曰南外大門在儀鸞門南。陽祿門在安明門  
北。萬秋門在儀鸞門西。福來門在萬秋門北。儀鸞  
門在豐樂院南。安明門在儀鸞門東。廣義門在八  
省院北。永福門在中和院後。昭慶門在永福門東。  
嘉喜門在昭慶門東。建禮門在嘉喜門東。春花門  
在建禮門東。宣明門見別圖。馬場殿在豐樂院北。  
武德殿在內匠寮東。真言院在武德殿東南。中和  
院在真言院東。職御曹司在桂芳坊東。本在大

宿直南。大歌所在圖書東。按禁裏圖建禮門  
曰青馬陣。在兼明門以南。春花門曰左馬陣。  
或曰左廂。在建禮門東。脩明門曰右馬陣。或  
曰右廂。在建禮門西。以上三門南面也。延政  
門曰右廂門。建春門曰左衛門。陣嘉陽門曰  
左廂門。以上三門東面也。朔平門曰縫殿陣。  
在玄暉門以北。式乾門曰西廂。在朔平門  
西。已上二門北面也。宣秋門曰右衛門。在陰  
明門以西。中和門在宣秋門南。以上二門西  
面也。遊義門在陰明門北。陰明門在宣秋門

武德殿在內匠寮東  
職御曹司在桂芳坊東  
本在大

東武德門在中和門東，美明門在建禮門北，永安門在兼明門西，長樂門在兼明門東，宣陽門在達春門西，玄暉門在朔平門南，徽安門在玄暉門西，安嘉門在玄暉門東，左腋門在春興殿南，右腋門在安福殿南，月華門在安福殿北，孔雀門在弓場殿南，死名門在弓場殿北，仙花門明義門在無名門東，恭禮門在左近陣西，敷政門在溫明殿南，青瑣門宜明門在敷政門西，榮明門在紅梅東，日華門在春興宜陽兩殿間。○殿舍者紫震殿俗曰

南殿，按天曆御記紫震殿，秦川勝宅所云九間，四面有此。仁壽殿在南殿北，九間四面。美香殿在仁壽殿北，九間四面。常寧殿在美香殿北，九間四面。貞觀殿在常寧殿北，俗云御醫殿在此，殿已上，五殿起于南行，于北皆卯酉建之。春興殿在日華門南，七間。二面。宣陽殿在日華門北，九間四面。綾綺殿在仁壽殿東，九間。二面。溫明殿在綾綺殿東，七間四面。麗景殿七間四面。宜耀殿在麗景殿北，七間四面。已上六殿起于東南行，北東皆子午建。

武德門

卷之五

十五

之安福殿在彤花門南七間二面。校書殿在  
月花門北七間二面。清涼殿云中殿又云御  
殿七間四面。後涼殿在清涼殿西七間。弘徽  
殿七間四面。登花殿在弘徽殿北七間四面。  
已上六殿起于西南行于北西皆于午建之。  
昭陽舍東五間四面。淑景舍東二在昭陽  
舍北五間四面。飛香舍在弘徽殿西五間四  
面。凝花舍在飛香舍北五間四面。襲芳舍在  
凝花舍北五間四面。同北舍但凝華舍飛香  
舍不載。弘仁九年勘文後代所造加也。已上

六舍起于南行于北卯酉建之。桂芳坊在朔  
平門內。花坊在桂芳坊東。蘭林在玄暉門北  
御後日北庇。東庇御膳宿日西庇。中殿日清  
涼殿在南殿西常。震居也。書御座夜御殿朝  
餉石灰壇鬼間二間上御壺稱秋。日臺盤所  
殿上下侍渡殿御裝物所內侍所。在南殿東  
后町在南殿北御匣殿。在后町北。日湯殿。校  
書殿在清涼殿南殿上前瀧口。在清涼殿  
北。黑戶瀧口。西也。陣座左近。在南殿東。日  
花門內。右近。在月花門內。鳥曹司在巽角兵

衛陣左在宣明門右在陰明門衛門陣左在庭  
春門右在宣秋門白馬陣在春化門南縫殿  
陳在朔平門批初陣左兵衛陣之由見寬元  
二年四月二日記此外在長生殿內舍人所  
內監所進物所御厨子所御書所內御書所  
大歌所內記所畫所作物所樂所絲所藏人  
所瀧口國史式所校書所藥殿納殿御櫛笥  
殿酒殿贊殿矢殿御舍宴松原及大臣宿所  
左右大將宿所左右中將宿所左右將監宿  
所兵衛督宿所同佐宿所頭宿所采女町女

監所守油女官修理內候所木工內候所主殿  
掃部內候所造酒主水宿所等所所依沿置  
略之。按八省院指圖八省院惣號日中臺  
亦曰朝堂院其正殿曰大極殿亦曰最大殿  
天子即位元日等諸司告朔所也當時無八  
省院故用紫震殿也應天門南面外門也二  
間閣五間戶三間長樂門且左廂門在應天  
門東永嘉門日右廂門在應天門西舍輝門  
日章德門外門在東朝集堂東章義門日興  
禮門西門在西朝集堂西會昌門日南內門

二間五間。戶二間在應天門以北。章德門。日內左廂門。在會昌門。東興禮門。日內右廂門。在會昌門。西盛化門。在宣政門。南敬法門。在章喜門。南宣政門。在通陽門。南章喜門。在顯親門。南通陽門。在景福堂。東面顯親門。在延體堂。西面永福門。在昭訓門。南廣義門。在光範門。南昭訓門。在渾光門。東面光範門。在壽成門。西面東福門。在永陽門。內西花門。在廣義門。內渾光門。在蒼龍樓。北壽成門。在白虎樓。北永福門。日西廂門。在昭慶門。西嘉喜門。

日東廂門。在昭慶門。東昭慶門。或日昭義門也。未詳。蓋北面外門也。此外有宣光門。永陽門。禮成門。崇賢門。不老門。延明門。金利門。吉德門。高陽門。嘉樂門。開明門。陽德門。青綺門。白綺門。逢春門。美秋門等。諸門依沿。是畧之。○大極殿。八省院。正殿也。小安殿。在大極殿北。七間。四面。蒼龍樓。日龍尾道。東樓上。多。小閣。白虎樓。日龍閣道。西樓上。多。小尾。日。上。二樓。各八間。栖鳳樓。日。應天門。外東樓。翔鸞樓。日。應天門。外西樓。日。上。二樓。各四間。昌福堂。

禮房抄

卷之五

在大極殿東南東北上第一堂也。含章堂在昌福堂南第二堂也。兼光堂在含章南第三堂也。明禮堂在兼光南第四堂也。延體堂在大極殿西南西北上第一堂也。含嘉堂在延體南第二堂也。顯章堂在含嘉堂南第三堂也。延祿堂在顯章南第四堂也。東西朝集堂在應天門內會昌門外各九間也。康樂堂在明禮堂內。永寧堂在延祿堂內。明章堂在康樂堂北。修式堂在永寧堂北。此外有清暑堂。東華堂。顯陽堂。

觀德堂西花堂永觀堂明儀堂延英堂。拓俊堂等。但舊內裏圖說詳見于拾芥鈔。然有詳難知者。故不贅註。

當時禁中圖說舊內裏造營面祿之後制儀尤微微也。且依時世有增減其詳不可得知。今所載當時禁中圖後光明院御宇圖也。禁裏南北百十一間。東西百一間也。紫震殿板敷也。四方板緣也。有賢聖障子。以絹張之。御緣板戶繪東西十一間。南北八間半。此外緣也。南面謂之南殿。元日即位等禮式用此殿。清涼殿板敷四

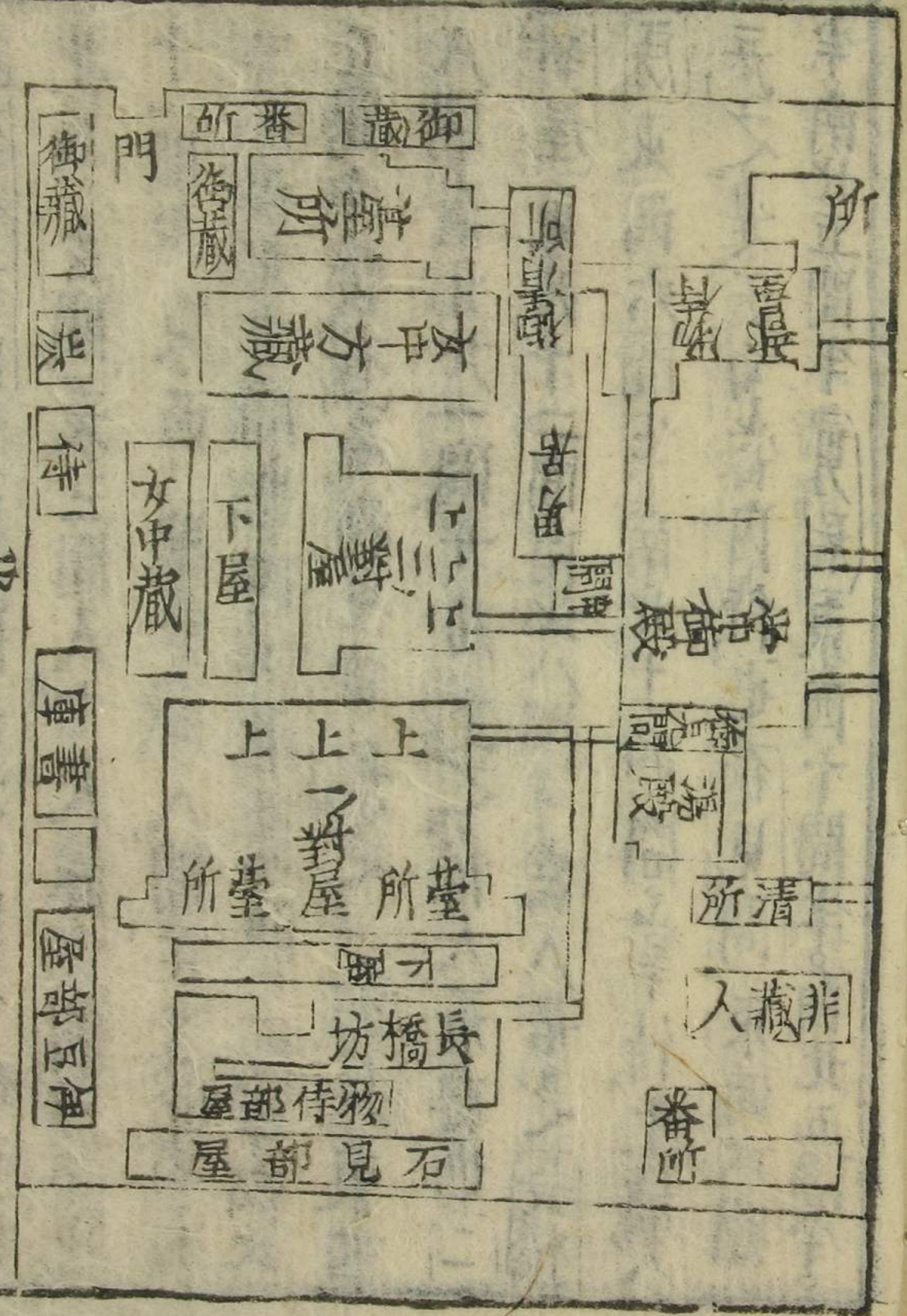
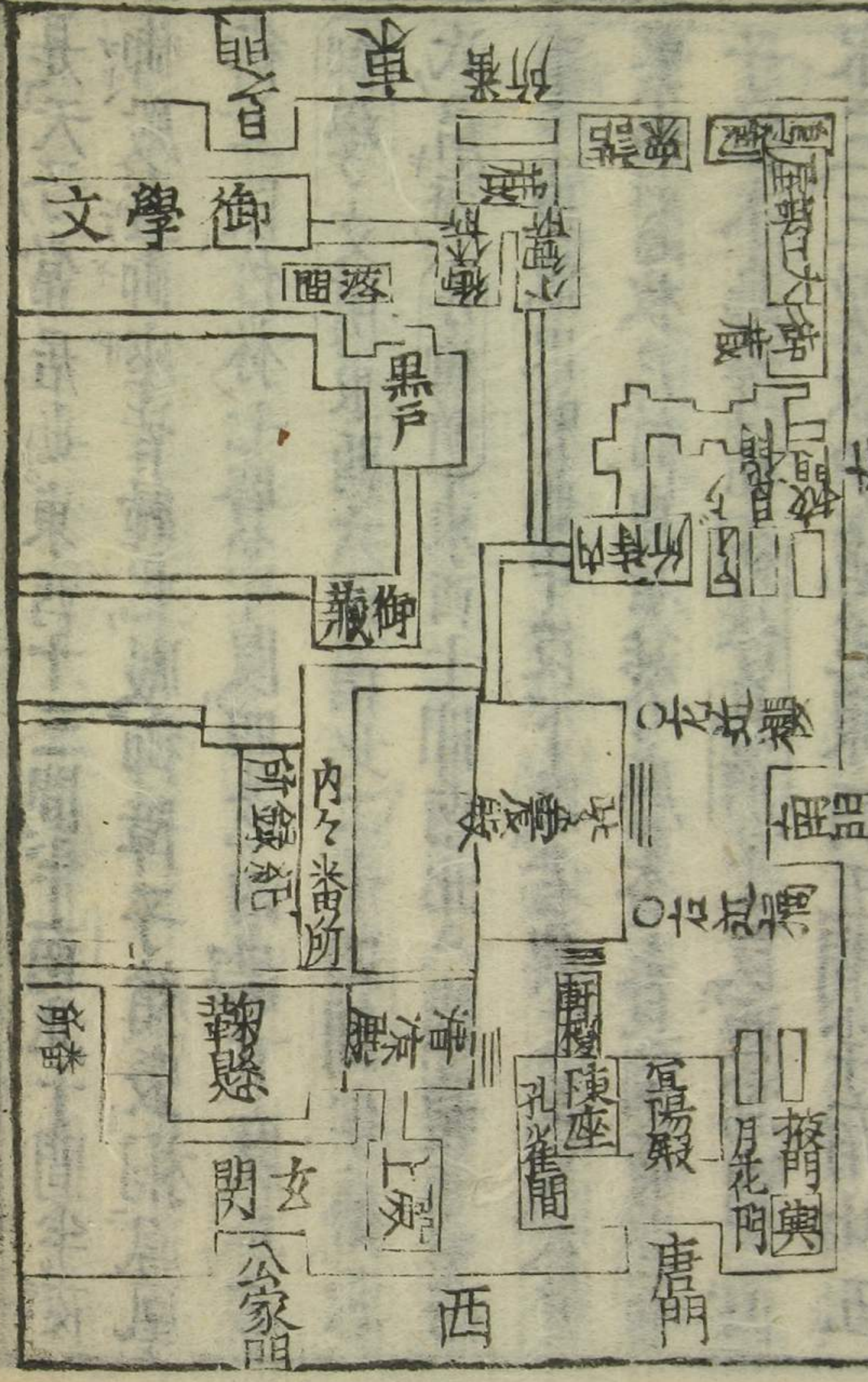


方緣御上段繪帝鑑圖御上段奧間四季二之  
 間四愛堂陶淵明菊周茂叔蓮山谷蘭林和  
 靖梅鶴三之間十季之圖四之間同三之間  
 下段板之間竹虎金花鳥等也枚戶雪梅竹  
 蘆雁雪梅竹蘆鷺松麒麟雪松鳳凰柴垣薔  
 田火雀竹鶴垣夕顏松鶴東西十一間南北九  
 間半有欄干南面也謂之御殿殿上間東西  
 十間南北五間南面昇階而有小板敷職原  
 鉢侍醫參小板敷者是也繪獅々牡丹菊田  
 鶴昇殿人之外地下人不能昇此殿常御殿

是天子常居也東西十三間半南北十間半夜  
 御殿晝御座皆歸此殿御障子繪張桐鳳凰  
 御上段竹林七賢中段四老四皓下段九老  
 御學文所東西六間南北二十四間半繪源  
 氏扇流示御所東西十間南北八間繪年中行  
 事上段龍田躰也中段下段者與上段同枚戶  
 繫船鷺枚戶竹虎芙蓉麝香香蘭菊山石雉  
 子枯木鳥等也御休息所上段西湖圖二山  
 水二三笑枚戶色色東西五間半南北五  
 間紀録所東西五間南北二間上段鞠會

當時禁中圖

禁外四方公家町也新院北相並國母  
仙洞在于南此後光明院御宇尚也



京都水  
卷之五  
四十二

外樣御番所 東西八間 南北四間半 繪梅椿  
花鳥 玄關 表三間八七尺餘 玄關內 南北  
十一間半 東西二間 非藏人間 在其北 東西  
三間 南北十間也 內侍所 東西三間半 南北  
五間半 後有局神巫等居之 一對屋 東西  
八間 南北廿一間 女房居之 官人居處也 二  
對屋 東西十二間 南北八間半 宮人居之 長橋  
房 東西六間半 南北十四間 掌侍 上臈人  
居之 是云 為當內侍也 御見間 東西六間  
半 南北五間半 男居 東西十間半 南北五間半  
物侍部屋 東西四間 南北十四間半 申間 御  
清所 東西十間半 南北五間半 常常盛御膳之  
處也 其案所 東西十三間半 南北十三間 但有六分  
緣 是在其案所外也 黒戸 東西四間 南北五  
間 此外有小間也 落間 東西三間 南北十  
五間 此外有竹緣 內內 番所 東西七間 南  
北二間 清所 東西四間 南北十間

職原抄支流卷之五終

宝永七庚寅年應鐘日

江戸日本橋万町

万屋清兵衛

板行



